科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	今村　哲也

1．授業の概要・到達目標

このゼミナールでは、大学生としてのスタディ・スキルをどのように身につけていくのかをテーマにして、演習形式の授業を行います。受講生は、各自が情報コミュニケーション学部で受講している講義科目で学んだことを、このゼミナールで互いに共有し、議論をすることで、学びの程度を深めていきます。受講生にとっては、大学生として日々学習していく上での「ペースメーカー」的なゼミとして位置付けられます。

本ゼミナールの方針は、以下の三つです。第一は、情報コミュニケーション学部で自ら受講している各種の講義で学んだことを毎週このゼミで学生同士でフィードバックするなかで、大学生として身につけるべき、論理的思考、資料の収集･分析、レポート、グループワークでのプレゼンテーション、ディベート等の技法について修得すること。第二は、これらの学びを通して、現代社会における情報とコミュニケーションの意義と機能を知り、受講生の問題関心を高めること。第三に､受講生が今後の学習計画を明確にできるよう、履修指導、学習の進め方、卒業後の進路選択などについて、アドバイザーとして適宜学生の相談に応じることです。

上記の講義方針のもとに、授業は、担当教員による講義と演習（プレゼンテーション等）を組み合わせて行います。講義では､「スタディ・スキル」についての基礎的知識を中心に説明を行います。

2．授業内容

第１回　イントロダクションーゼミの進め方などー
第２回　プレゼンテーションの方法
第３回　自己紹介①
第４回　自己紹介②
第５回　ディスカッション①
第６回　ディスカッション②
第７回　ディスカッション③
第８回　ディスカッション④
第９回　ディスカッション⑤
第10回　グループワークのテーマ設定１
第11回　グループワーク①
第12回　グループワーク②
第13回　グループワーク③
第14回　プレゼンテーション１
第15回　秋学期のゼミナールに関する案内
第16回　ディスカッション⑥
第17回　ディスカッション⑦
第18回　ディスカッション⑧
第19回　ディスカッション⑨
第20回　ディスカッション⑩
第21回　グループワークのテーマ設定２
第22回　グループワーク④
第23回　中間発表
第24回　グループワーク⑤
第25回　グループワーク⑥
第26回　プレゼンテーション２
第27回　レポートのピアレビュー①
第28回　レポートのピアレビュー②

3．履修上の注意

ディスカッションやグループワークを多く取り入れるため、積極的な姿勢を持って臨むこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

予習としては、ゼミの日までに学んだ情コミでの授業について、他の学生とディスカッションできるように、準備をし、教科書を精読してくること。
復習としては、授業内で学んだこと及び疑問に思ったことを整理し、各自が受講している授業にも役立てられるようにすること。

5．教科書

指定しない（資料配布）。

6．参考書

ゼミナール内で指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法

メール等で個別に行う。

8．成績評価の方法

授業への貢献度 60%，プレゼンテーション20%，レポート20%
正当な理由なく3回以上欠席した場合，演習の性質上所定の教育効果が得られないため，単位は与えない。

9．その他

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	岩渕　　輝

1．授業の概要・到達目標

【授業の概要】　<いのち>とは何なのか、<いのち>は何故大切にしなければならないのか等、<いのち>に関する問題は、すべての人が考えるべき問題ですが、小学校から大学に至るまで、学校という場でこうした問題について議論する機会は残念ながらあまり多くはありません。そこで本ゼミナールでは毎年、<いのち>や生き方を考えるための題材を提供し、学生のみなさんが自由に意見交換できる場を提供しています。

本ゼミナールのテーマは毎年少しずつ変わりますが、本年度は「コロナ禍において<いのち>や暮らしがどのように扱われたか」という問題を中心に取り上げます。

コロナ禍が始まった当初、部活やアルバイトや友達との会話を自粛しなければならなくなり、貴重な時間を有意義に使えなくなった人も多いと思います。お店の経営者の中には営業時間の短縮を要請されたことが一因となって経営破綻し自殺に追い込まれた人もいます。医療従事者や医学生の中には、自己決定権があるはずのワクチン接種を同調圧力で事実上強制された人もいます。極めて悪性の感染症が大流行した際には、ある程度の強い措置をとらざるを得ないこともちろんありますが、その場合、流行が一段落した後で本当に適切な措置だったのか、どの方面にどれだけの税金が使われたのか、その使われ方は適切だったのか、等について十分検証する必要があります。また、メディアのあり方についても検証が必要です。読売新聞、サンテレビ、CBCテレビ等の報道によると、新型コロナワクチンで健康被害を受けたり死亡したりしたとして救済(医療費や死亡一時金の支給)が申請された件数が9500件以上あり、そのうち、因果関係を否定出来ないとして国が救済を認定した件数は5300件以上（厳密な医学的な因果関係は不明なものも含む）に上るそうです（2023年12月現在）。ちなみに、新型コロナワクチンに関するこの救済認定件数は、新型コロナワクチンを除く過去45年間のすべてのワクチンの救済認定件数の累計(3522件)を超えているとのことです。一部のメディアを除き大多数のメディアは最近まで、このような報道をあまりして来なかったように見受けられますが、そうだとすれば大きな問題です。メディアのあり方は私たちの「知る権利」に関わることだからです。

ゼミの時間は、全員で読む輪読用テキストを決めて発表当番を割り当て、当番の人に発表していただき、ゼミ生全員で議論することが中心になります。また、読用テキストとは関係なく、日ごろ自分が抱いている疑問を提示し、それについて他のゼミ生から意見をもらう時間もとる予定です。他のゼミ生からの質問に答えたり、様々なコメントをもらったりする中で、自分の考えを深めて下さい。

【到達目標】　本ゼミナールの目標は、コロナ禍でとられた対策や社会のあり方を題材に、メディアではあまり報道されない重要な情報を収集し、その真偽を検証する方法を学びながら、<いのち>や生き方についての各自の興味と考えを深めて行くことにあります。

2．授業内容

第１回　はじめに（春学期）
第２回　感染症全般の基礎知識
第３回　議論（発表者A）
第４回　過去の感染症の歴史
第５回　議論（発表者B）
第６回　過去の薬害事件の歴史
第７回　議論（発表者C）
第８回　新型コロナウイルス感染症の基礎知識
第９回　議論（発表者D）
第10回「命の選別」の問題
第11回　議論（発表者E）
第12回　営業時間短縮要請および外出自粛要請の問題
第13回　議論（発表者F）
第14回　まとめ（春学期）
第15回　はじめに（秋学期）
第16回　同調圧力および、いわゆる「自粛警察」の問題
第17回　議論（発表者G）
第18回　ワクチン接種の問題
第19回　議論（発表者H）
第20回　予防接種の健康被害救済制度の問題
第21回　議論（発表者I）
第22回　巨額の税金の使われ方の問題
第23回　議論（発表者J）
第24回　メディアの報道のあり方の問題
第25回　議論（発表者K）
第26回　コロナ禍の全体的総括
第27回　議論（発表者L）
第28回　ａのみ：まとめ（秋学期）

3．履修上の注意

予備知識は必要ありません。

輪読用の本の購入費（一学期につき数千円程度）が必要になります。輪読用の本は参考書欄の本の中から選ぶ可能性が高いですが、最終決定はゼミ開始時になりますので、まだ買わないで下さい。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

当番制で発表していただきますが、発表当番になった人は発表テーマについて十分な準備をして下さい。また、他の人の発表を聞くときも、関連することを予習・復習し十分な議論ができる準備をしてゼミに臨んで下さい。

5．教科書

とくに定めません。

6．参考書

『新型コロナワクチンの光と影 ―誰も報じなかった事実の記録―』大石邦彦。方丈社、2023年。
『検証･コロナワクチン ―実際の効果、副反応、そして超過死亡―』小島勢二。花伝社、2023年。
『ルポ「命の選別」―誰が弱者を切り捨てるのか？―』千葉紀和・上東麻子。文藝春秋、2020年。
『つくられる病 ―過剰医療社会と「正常病」―』井上芳保。ちくま新書、2014年。
厚生労働省の薬害教育テキスト『薬害を学ぼう』(https://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/yakugai/index.html)。

7．課題に対するフィードバックの方法

最終授業日および最終授業終了直後に課題の解説と講評を行ないます。

8．成績評価の方法

授業への参加度（40%）、発表当番時の発表内容と質疑応答（40%）、他の発表者への質問と意見（20%）。

9．その他

考えることが好きな人、「本当のことが知りたい」という気持ちの強い人、本好きの人、普段話す機会があまりない話題について誰かと話してみたい人、答の無い問題に向かう意欲のある人を歓迎します。ゼミ生の中から、物事を深く考える人がたくさん出てくれると嬉しいです。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

４単位	１年次	牛尾　奈緒美

１．授業の概要・到達目標
本ゼミナールでは、人生の夢の実現と大学での学びについて、個々人の考え方を確立するための議論や発表の場を提供することを目標としている。卒業後社会に貢献する人間となるために、今何を為すべきか自分なりの答えを導いていく。
第一に、何がやりたい？何になりたい？何が好きか？自分の将来への希望、達成したい夢は何か、内なる声を聞き熟考する。そのうえで、仕事や私生活を含む広い意味でのキャリア形成に対して大学での学びはどのような意味を持つのか、その価値を究明していく。自分を知ること、内向きの問いから始めて、後々は社会の問いへ発展させていくことを目指しており、そのための助走が、大学一年時であると考える。
多様性の尊重が求められるいま、まず知るべきは自分。自分だけが持つ個の価値に気づき、他者に対しても同様に個の価値を有することを認識し尊重できる人間になる事が何より重要である。学習を通して、それぞれの個の価値を生かすことがより良い組織や社会の創出の原動力となることへの気づきを促したい。また、第一線で活躍するキーパーソンをお迎えし、自身のキャリアや日本社会の直面する問題について直接話しを伺う機会を設けることも計画したい。
　授業の到達目標は、自分自身の価値や人生目標、それに基づく学習計画について独自の考えを持ち、それを他者に論理的に伝えられる能力を養うこととする。また、評定は、議論での発言、発表内容等の総合的評価に基づき総合的に判断する。

２．授業内容
前期
第一回　イントロダクション
第二回　自己紹介のプレゼンテーション①
第三回　自己紹介のプレゼンテーション②
第四回　自己紹介のプレゼンテーション③
第五回　自己紹介のプレゼンテーション④
第六回　自己紹介のプレゼンテーション⑤
第七回　キャリア論についての教科書の輪読とグループ発表①
第八回　キャリア論についての教科書の輪読とグループ発表②
第九回　キャリア論についての教科書の輪読とグループ発表③
第十回　キャリア論についての教科書の輪読とグループ発表④
第十一回　キャリア論についての教科書の輪読とグループ発表⑤
第十二回　キャリア論についての教科書の輪読とグループ発表⑥
第十三回　キャリア論についての教科書の輪読とグループ発表⑦
第十四回　キャリア論についての教科書の輪読とグループ発表⑧
教科書の輪読とグループ発表では、適宜、大学での自主学習の方法についての教科書等を参照しながら、情報の獲得・分析方法、発表方法、議論への参加方法について伝授する。

後期
第十五回　発表①
第十六回　発表②
第十七回　発表③
第十八回　発表④
第十九回　発表⑤
第二十回　発表⑥
経営者の伝記、尊敬するスポーツ選手、偉人など、自分の気になった人のキャリアや業績について各人が発表を行う。なぜ自分はその人に憧れるのか？理由を明らかにしながら論理的に伝える。（夏休み中に各人がパワーポイントで発表資料を作成すること）
第二十一回　議論①
第二十二回　議論②
第二十三回　議論③
第二十四回　議論④
第二十五回　議論⑤
各人のキャリア形成の考え方をふまえ、それぞれの活躍が今後の日本社会の発展にどのような貢献をもたらしうるのか、いくつかの観点を挙げて議論を行う。観点ごとにグループを結成し、各班が各従業回の議論のファシリテータ役を務めて議論を展開する。
第二十六回　最終発表①
第二十七回　最終発表②
第二十八回　最終発表③
マンドラチャートで、自分の達成したい夢について各人が発表する。

３．履修上の注意
毎回、積極的に発言すること。ゼミナールへの参加姿勢により評価を行う。やむを得ず欠席する場合は、理由を添えて事前に届け出ること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
予習については、前週に指示するので各自準備をして授業に臨むこと。事前に授業に関わる資料を配布したり調べるべき課題を指定したりするので、それを読み自分なりの理解と考えを整理すること。

５．教科書
適宜、提示する。

６．参考書
適宜、提示する。

７．課題に対するフィードバックの方法
授業内で指示する

８．成績評価の方法
授業への出席率と議論への参加状況で５０％、グループ発表や課題提出状況で５０％として成績評価を行う。授業の出席は履修の必須条件のため、授業の欠席が多い者は失格となる。

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

４単位	１年次	江下　雅之

１．授業の概要・到達目標
　このゼミナールは、メディア史の基礎的な知識およびメディア史を理解するための視点を修得することを目的とするメディア史入門演習であるのと同時に、データサイエンスを用いたリサーチの入門的な演習でもある。
　メディア史とは、社会生活史、産業経済史、技術史などの分野が絡み合う複合領域である。メディア史はきわめて広汎な範囲におよぶため、基礎ゼミナールにおいては映画史と雑誌史を中心に扱う。
　この演習の春学期は映画史を対象とする。映画史であれば、フィルムという記録媒体の改良、カメラという撮影機器の開発の歴史に加え、映画で描かれる物語の表現形式、モンタージュ技法に代表される撮影および映像編集の手法、スタジオシステムや配給システムなどのビジネス・イノベーションなど、多くのエピソードで形成されている。
　具体的には、1）講義形式で基礎的な事柄を学ぶ、2）具体的な課題を通じて学生自身がさまざまな事例を調べ、また、現在のメディア環境との関連性を考察する、という二つの活動を実践する。この演習を通じ、1）資料収集、2）資料整理、3）レポートの作成など、リサーチの基礎的スキルの習得を、グループワークを通じて目指す。
　秋学期は雑誌史のなかでもファッション誌を題材に、団塊世代とポスト団塊世代のなかで特徴的に見られたユース・サブカルチャーズとの関連性に注目する。これらの世代の具体的なライフスタイルと雑誌との関係を、実際の雑誌資料を分析することを通じて学ぶ。分析においてはデータサイエンスの手法を用いて作成したデータを使用する。具体的には、1）表紙、2）広告、3）目次、4）特集記事など、雑誌の分析実務で調査対象となるポイントの分析を、春学期と同様にグループワークによる作業で実践し、雑誌を用いたリサーチ実務の基本を習得することを到達目標とする。

２．授業内容
第１回　春学期のガイダンス
第２回　レポートの作成方法（講義・演習）
第３回　基礎知識のための講義（1）映画史を学ぶための基礎
第４回　基礎知識のための講義（2）その作品の映画史的な意義は？
第５回　演習「映画の新たなムーブメント」テーマのねらいの解説と主な情報源
第６回　ワークショップ：資料収集と用語の理解
第７回　ワークショップ：収集した資料の整理とレポートの構成の検討
第８回　ワークショップ：レポート作成
第９回　基礎知識のための講義（3）映画における「作家」性
第10回　演習「映画の創作技法」テーマのねらいの解説と主な情報源
第11回　ワークショップ：資料収集と用語の理解
第12回　ワークショップ：収集した資料の整理とレポートの構成の検討
第13回　ワークショップ：レポート作成
第14回　春学期の総括
第15回　秋学期のガイダンス
第16回　基礎知識のための講義（1）旅行需要の構造的な変化
第17回　ワークショップ（1）課題：アンノン族の旅
第18回　ワークショップ（1）資料（主として表紙と目次）からの情報収集
第19回　ワークショップ（1）情報の整理
第20回　ワークショップ（1）レポートの着地点の考察と骨子の検討
第21回　ワークショップ（1）レポートの作成および分析結果の報告
第22回　ワークショップ（2）課題：女子大生の就職における雇用機会均等法の影響
第23回　ワークショップ（2）資料（主として連載記事）からの情報収集
第24回　ワークショップ（2）情報の整理
第25回　ワークショップ（2）情報の整理
第26回　ワークショップ（2）レポートの着地点の考察と骨子の検討
第27回　ワークショップ（2）レポートの作成および分析結果の報告
第28回　秋学期の総括
なお、課題およびスケジュールは現時点での予定であり、変更される場合がある。詳細はガイダンスで説明する。

３．履修上の注意
レポートの作成はグループ単位でおこなう。その際にgoogleドキュメントを使用する。データサイエンスというとプログラミングを連想する者が多いと思うが、この演習ではプログラミングは一切おこなわない。この演習では「データサイエンスを用いたリサーチ」を標榜しているが、教員側がPythonプログラムであらかじめ分析した結果を学生が用いることを基本とする。
データサイエンスは現代社会において非常に重要なリサーチ手段となっているが、プログラミングはその全てではない。この演習では、データサイエンスの手法で分析されたデータからレサーチペーパーを作成するプロセスを学んでほしい。そうすることで、さまざまなツールを利用することの意味と威力を実感してほしいと考える。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
指定された範囲をあらかじめ一読しておくことが求められる。
念のために再度強調しておくと、この演習ではプログラミングは一切取り扱わない。

５．教科書
とくに指定しない

６．参考書
柳下毅一郎『興行師たちの映画史』
R. スクラー『アメリカ映画の文化史』
難波功士『族の系譜学　ユース・サブカルチャーズの戦後史』

７．課題に対するフィードバックの方法
半期につき原則として3回の課題（グループワーク）を実施するが、課題を発表する回において、すぐれた内容および改善点をコメントする。

８．成績評価の方法
発表・質疑応答などゼミへの参加状況（出席は当然の前提とする）に基づいて評価する（100%）

９．その他
メディアやコミュニケーション行動の歴史、とりわけ現在社会に広く普及しているスマホアプリやゲーム等が、メディア史のなかでどのような系譜に位置づけられるのか、といった事柄に関心のある学生を歓迎する。ただし、ゼミの内容自体は資料整理やノート作成など地道な作業ばかりなので、それが苦にならないことが求められる。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

４単位	１年次	小田　光康

１．授業の概要・到達目標
このゼミのテーマは「起業ジャーナリズム入門」です。起業ジャーナリズムとは、米国で台頭している新しい報道メディア経営の手法です。デジタル時代を迎え、多くの報道機関がイノベーションを起こす必要性に迫られています。起業家とは、新しい事業を立ち上げて法人を設立する人を指します。英語では「entrepreneur（アントレプレナー）」といいます。ゼミでは起業に必要な基本的な経済・経営学的な知識、メディアにおける取材と報道の基礎を身につけ、秋学期末までに起業ジャーナリズムのビジネスプランを完成することを目標にします。

２．授業内容
第１回　夏学期イントロダクション　メディア環境の劇的変化と起業ジャーナリズム
第２回　企業活動と経営戦略の概要、環境分析（ＳＷＯＴ分析）
第３回　競争戦略（業界構造の分析、競争回避の戦略、競争優位の戦略）
第４回　成長戦略（ドメイン、競争優位性、市場マトリクス、ＰＰＭ）
第５回　技術経営（イノベーション、ベンチャー企業のマネジメント）
第６回　組織構造論（組織構造の設計原理、組織構造の形態）
第７回　組織行動論（モチベーション理論、組織文化、リーダーシップ論）
第８回　労働関連法規（労働基準法）
第９回　マーケティングの基礎概念
第10回　マーケティングマネジメント戦略の展開
第11回　マーケティングリサーチ
第12回　消費者購買行動
第13回　プロダクト戦略（報道コンテンツ、ブランド）
第14回　夏学期まとめ（ビジネスプラン中間発表）
第15回　秋学期イントロダクション
第16回　価格戦略
第17回　チャネル・流通戦略
第18回　プロモーション戦略
第19回　関係性マーケティングとデジタルマーケティング
第20回　財務会計の基礎
第21回　財務諸表概論
第22回　経営分析
第23回　管理会計
第24回　投資の経済性計算
第25回　企業財務論
第26回　証券投資論
第27回　課題最終発表
第28回　課題最終発表、まとめ

３．履修上の注意
高校教科の「政治経済」と「公民」の知識があることを前提にゼミを進めます。これらの知識が不足している学生はゼミ履修の事前に学習しておいてください。毎回の学習量が相当多く、予習復習に4−5時間かかります。毎回のゼミで簡単なグループ発表をするので、他の学生とのグループワークをする必要があります。将来、メディアを起業してジャーナリストとして活躍したい学生を歓迎します。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
毎回のゼミで前の週に学んだことを活かした部分的なビジネスプランを、グループで発表してもらいます。

５．教科書
特に定めません。教員が教材を準備します。

６．参考書
一般的な高校の政治経済と公民の各教科書。大学学部レベルの企業経営学と財務会計学の教科書。

７．課題に対するフィードバックの方法
課題発表での質疑応答や教員からの指摘・助言でフィードバックをします。

８．成績評価の方法
授業への参加度と課題発表（50％）と最終発表（50％）で評価する。全授業の４分の3以上が単位修得の評価対象とする。

９．その他
このゼミで学んだ内容をもとにメディアを起業するほか、大学院でＭＢＡを取得するのもいいですし、中小企業診断士の資格にチャレンジするのもいいと思います。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

４単位	１年次	川島　高峰

１．授業の概要・到達目標
授業の概要
　このゼミナールでは、受験勉強ではじっくり考える暇がなかった「自分らしさ」をテーマにします。そして、「時代にふさわしい自分らしさ」とは何かを考えてみることにします。
　それでは、この時代ってどんな時代でしょうか？
　昭和の時代と異なり冷戦崩壊後の1990年代から世界は激変期の連続となりました。この間、日本はガラパゴスとか、平成時代は「失われた30年」と称され、世界の変化激動から取り残されたかのような言われ方をされています。しかし、日本も激変をしたのです。最も変わらなかったのは受験勉強や人材育成の社会システムだけかもしれません。
　激変の最も分かりやすい事例こそ、「情報とコミュニケーション」であり、メディアと文化、社会とコミュニケーションの変化です。君たちが小・中学生の時にはなかった「もの」や「こと」が次々と登場しました。携帯電話／スマートフォン、Youtube、LINE、オンラインショッピング、デリバリサービス、マッチングアプリ、仮想通貨、様々なポイント制等々、今やどれも当たり前の日常になっています。この分野では数年後にどうなるのかということさえ予想が容易ではありません。
　激変はこの領域だけではありませんね。気候変動や自然災害の激甚化、終身雇用社会の終焉、少子高齢化に伴う人口減少社会、地方消滅、人生100年時代、年金破綻、AI（人工知能）の発達による「なくなる職業」・産業再編、中華人民共和国の経済・軍事大国化、パンデミックと感染症脅威の日常化、脱炭素社会、電気自動車時代の到来―――など世界は全分野的に激変の連続です。
到達目標
　こうした激変の時代に私たちは好むと好まざるとに関わらざるを得ません。そして、この中で自らの人生、生き方、生計を立てていくのです。このゼミナールでは皆さんが将来のライフスタイルや人生を考えるために必要なこの激変期の基本情報を学ぶことを目標としています。
　実習活動として、地方創成活動（国土交通省若者地方体験／総務省ふるさとワーキングホリデー・地域おこし協力隊）などの紹介と学生派遣（志望学生派遣５０名以上）、史跡・名跡・博物館・民間企業等への訪問研修、秋学期にはベトナムの学生との国際交流を実施します。

２．授業内容
春学期　導入編
第１回　1）明治大学&情コミの紹介、2）学生生活ガイド、3）学問とは？（受験勉強との相違）、4）教養とは？（日本型教養とグローバル共通教養）
第２回　1)「自分らしさ」&「時代にふさわしい」とは？　2）Z･a世代&青春とは？、3）どうして「自分らしく」生きにくいのか？ 4）プロフのリテラシー
知っておきたいこと９選
第３回　1）世界潮流・学歴格差　2）三大弱者、貧困女子・子供の貧困・下流老人　3）格差の固定化と階級化／再封建化と自己責任論
第４回　シンギュラリティって何？　AI（人工知能）は世界をどう変える？
第５回　人口減少社会でおきること、「無縁社会」の登場
第６回　想定外の気候変動・自然災害の激甚化
第７回　終身雇用社会の終焉・非正規雇用の拡大・生産者人口・外国人労働者・・・
第８回　学生報告（プロフ）
第９回　世界都市東京の形成と首都圏拡大、結界の消滅、地方消滅は日本消滅
第10回　人はなぜ旅をするのか　ツーリズムとノスタルジア（郷愁）の歴史、故郷喪失から地方消滅、そして、故郷創出の時代へ
第11回　世界の地方創生、フランス美しい村連合、イタリア小さな村、日本・明るい農村から新日本紀行へ
ベトナム留学生受入準備編
第12回　国際交流常識　これだけは知っておこう！
第13回　ベトナム常識　これだけは知っておこう！
第14回　夏季課題　日本をどう紹介しますか？
秋学期　国際交流編
第15回　在日ベトナム人と在ベトナム日本人、ベトナムってどんな国、途上国って?
第16回　ベトナム国際交流の企画準備
第17回　ベトナム国際交流の実習1
第18回　ベトナム国際交流の実習2
第19回　ベトナム国際交流の実習3
知っておきたい世界６選
第20回　12才の少女兵と国境なき医師団
第21回　カシム・ザ・ドリーム　アフリカの貧困
第22回　ジュネーヴ戦記　国連人権理事会であったこと
第23回　Noh（農）と言える日本
第24回　MDGs、SDGs、メガトレンド、世界知の形成
第25回　学校知、世間知、世界知

年間総括・学生報告
第26回　皆さん、どんな人？１
第27回　皆さん、どんな人？２
第28回　皆さん、どんな人？３　実は、先生はこんな人
※　情勢の変化により内容に追加や変更が生じる場合があります。

３．履修上の注意
　本ゼミの理解と学生間の親睦を深めるために先生の講義科目「政治学」の履修をおすすめします。国際交流に関心を持つ学生は「国際交流ベトナム」の履修をおすすめします。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
『未来年表』生活総研（博報堂）　https://seikatsusoken.jp/futuretimeline/ を見ておきましょう。

５．教科書
特にありません。そもそも、教科書のない問題ばかりですからね。

６．参考書
授業時に指示します。

７．課題に対するフィードバックの方法
ゼミナールなので、毎週、学生とのインタラクティブな教育を実施しています。

８．成績評価の方法
平常点は受講態度が28％、数回課す授業へのコメント／アンケートが12％、最終成果物が60％

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

４単位	１年次	熊田　　聖

１．授業の概要・到達目標
このゼミのねらいは、調査、発表、レポート作成を行うことが出来るようになることです。つまり、ある分野について学習したことをうまく伝えていくことをトレーニングしていきます。対人的well-beingともいえます。そのため、選んだテーマに対し、調査・準備をし、授業は自由に皆さんの考えをのべてもらう場となります。その上で、仲間の意見も知ってもらうよう、ディベートも行う予定です。また「思索トレーニング」では、学生の提案したテーマについて自分の考えをとめて提出します。
思索トレーニングの内容：AかBの選択肢があるものを議論し、どちらが自分は良いと思うかをレポートにまとめる
過去のテーマ例
・USJかディズニーランドか
・仕事はやりがいか給料か
・自転車は乗れるようになっておくべきか
・ファンデーションはカバー力かテクスチャーか
【授業の概要】
前期
SHOW（A）：理科の実験を小学生に伝えるつもりで分かりやすく発表しよう。
SHOW（B）：質疑応答の形式で発表しよう。
SHOW（C）：自由に発表しよう。
なぜSHOWをするのか、なぜ理科実験の形式なのか、半期を通して考えてみましょう。
後期
SHOW（A）：起業家を演じましょう。
SHOW（B）：本について発表しよう。
SHOW（C）：自由に発表しよう。
どうしたら理科実験をしないで伝えられるのかを、半期を通して考えてみましょう。
エンターテイメントを意識した小学生レベルの理科の実験や絵本などを題材として表現の仕方を自分で考え発表します。発表では聞き手が理解してくれる、あるいは賛成してくれるように心がけてください。その週の担当者が自分の考えてきた発表をします。
その後、各自で関心のある問題を選択し、ディベートを行います。すなわち1回1回のゼミは皆さんが作りあげていく、比較的自由度の高いゼミです。
SHOWはパワーポイント、口頭、その他やりやすい方法で自由に発表可能です。
【到達目標】
自分の意見を、自分流に主張することとは別に、相手が理解できる形で提示する工夫をすることができるようになること。

２．授業内容
第１回　発表スケジュール決定、名札作成
第２回　ＳＨＯＷ（A）・思索トレーニング
第３回　ＳＨＯＷ（A）、思索トレーニング
第４回　ＳＨＯＷ（A）、思索トレーニング
第５回　思索トレーニングディベート
第６回　ＳＨＯＷ（B）、ディベートのテーマに関する感想提出、思索トレーニング
第７回　SHOW（B）、思索トレーニング
第８回　ＳＨＯＷ（B）、思索トレーニング
第９回　ＳＨＯＷ（C）、思索トレーニング
第10回　ＳＨＯＷ（C）、思索トレーニング
第11回　ＳＨＯＷ（C）、思索トレーニング
第12回　商品開発ゲーム
第13回　仕掛け学に基づくアクティビティ（１）
第14回　仕掛け学に基づくアクティビティ（２）
第15回　発表テーマ、グループ決定
第16回　社会企業家を演じる（１）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第17回　社会企業家を演じる（２）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第18回　社会企業家を演じる（３）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第19回　ディベート
第20回　本について発表しよう（１）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第21回　本について発表しよう（２）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第22回　本について発表しよう（３）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第23回　ディベート
第24回　自由に発表しよう（１）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第25回　自由に発表しよう（２）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第26回　自由に発表しよう（３）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第27回　絵本を用いた質疑応答形式発表（１）
第28回　絵本を用いた質疑応答形式発表（２）

３．履修上の注意
このゼミは、現代社会の問題に対して関心を持ち、調査、分析に関心があり、またグループでの活動、他者との人間関係を築ける学生に適しています。
使用する教科書の実践編がゼミです。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
あえて理想的なShowを紹介することはしません。聞き手にはどのような工夫が必要とされるのかを、自分で判断して準備して欲しいと考えるためです。Showの当日は、自分が有意義だと感じたが、聞き手はあまりそれを必要と感じなかった情報は何か。あるいは反対に、自分は必要と感じなかったが、聞き手はそれを重要だと感じていたものは何かという二点に注目しましょう。
このような一連のプロセスを分析・改善し、次回のShowの準備のために新たな試行錯誤を経験する、という流れの全てを学びの機会と捉えてください。

５．教科書
熊田聖「意思決定論理」泉文堂等、詳しくは授業内で連絡します。

６．参考書
授業内で連絡します。また、必要な書籍はゼミ費で購入し配布します。

７．課題に対するフィードバックの方法
前回までの学生からのコメントに関し、授業の中で適宜解説していきます。
課題に関しては、締め切り当日あるいは次週の対面授業、あるいは個人あてにコメントします。

８．成績評価の方法
　評価は、
１）レジュメと発表内容　30%
２）発表者へのアドバイス　30%
３）ディベートへの参加　20%
４）思索トレーニングへの参加　20%
以上４点で行います。

９．その他
男女比約１：１で楽しく仲良く活動しています。
教科書はゼミ費より支給します。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

４単位	１年次	後藤　　晶

１．授業の概要・到達目標
授業の概要：
　パスカルの「人間は考える葦である」と言う言葉は非常に有名であるが、人間は死ぬまで「考える」ことを続けなければならない。一方で、「考える」とはどのような行為であるのか、と問われると一つの回答を導くことは困難である。少なくとも、検索して容易にわかることではない。
　本基礎ゼミナールでは、3冊の教科書を手がかりとして、「考える」ことをテーマとする。特に、思考法に着目することで、将来に渡って使える思考のスキルの基礎を身につけて、そのスキルを実践するという一連を体験することを目的とする。前半では「アイデア発想」志向の思考法に着目する。現状を変える新しいアイデアを生み出すためには、過去に学び、将来を志向するという真摯な態度が求められる。中盤では「問題解決」志向の思考法に着目する。問題解決の一連のプロセスは「問題認知」から始まり、「解決策の探求」、「解決策の実行」、「結果の吟味」を経て次の問題解決へと繋がるものである。それぞれのプロセスについて1つずつ検討する。
　そして、最後には思考の実践のテーマとして「より良い社会制度のあり方」を設定する。どのような状況ではどのような社会制度が適しているのか、アイデア発想手法と問題解決手法を用いて検討する。また、制度設計における行動経済学・行動科学の役割についても検討する。
　なお、毎回の授業は担当者の報告とそれに基づいたディスカッションにより進行する。
　さらに、適宜簡単なレポートの執筆とピアレビュー（相互評価）の機会を設定し、文章執筆能力の向上を図ったり、テーマに関連するデータ分析の手法を紹介するなど、大学生として求められる基礎能力の向上を図る。

到達目標：
　1. 自身の力で資料の整理・発表資料の作成・プレゼンテーションの実施の一連の流れを行うことができる。
　2. 新しいアイデアを出すための方法と同時に、姿勢を涵養することができる。
　3. 問題を解決するための方法と同時に、姿勢を涵養することができる。

２．授業内容
第１回　春学期イントロダクション
第２回　レポート執筆のトレーニング（1）
第３回　発表とディスカッション（1）
第４回　発表とディスカッション（2）
第５回　発表とディスカッション（3）
第６回　発表とディスカッション（4）
第７回　レポート執筆のトレーニング（2）
第８回　発表とディスカッション（5）
第９回　発表とディスカッション（6）
第10回　発表とディスカッション（7）
第11回　発表とディスカッション（8）
第12回　レポート執筆のトレーニング（3）
第13回　発表とディスカッション（9）
第14回　発表とディスカッション（10）
第15回　秋学期イントロダクション
第16回　発表とディスカッション（11）
第17回　発表とディスカッション（12）
第18回　レポート執筆のトレーニング（4）
第19回　発表とディスカッション（13）
第20回　発表とディスカッション（14）
第21回　発表とディスカッション（15）
第22回　発表とディスカッション（16）
第23回　レポート執筆のトレーニング（5）
第24回　発表とディスカッション（17）
第25回　発表とディスカッション（18）
第26回　発表とディスカッション（19）
第27回　発表とディスカッション（20）
第28回　秋学期まとめ

３．履修上の注意
演習形式の授業であるために、出席を重要視する。また、発表担当者になった場合は必ず発表資料を用意して出席すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
小課題の提出・発表の準備等が必要となる。

５．教科書
『アイデア大全』、読書猿、フォレスト出版　／　『問題解決大全』、読書猿、フォレスト出版　／　『あなたを変える行動経済学』、大竹文雄 、東京書籍　／　『数理モデル思考で紐解く RULE DESIGN -組織と人の行動を科学する-』、江崎 貴裕 、ソシム

６．参考書
『独学大全――絶対に「学ぶこと」をあきらめたくない人のための５５の技法』、読書猿、ダイヤモンド社
その他、授業中で紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業でリアクションペーパーに対するコメントをする。

８．成績評価の方法
毎回の授業への参加状況30%、課題の評価40%、レポート30%
　毎回の授業への参加状況：リアクションペーパー等を含めた授業への参加状況を評価する。
　課題の評価：発表資料を評価する。
　レポート：学期末にレポートを課す。

９．その他
ゼミナールは各学生のコミュニケーションにより学びが創発される。他者の意見に耳を傾け、自身の意見を明確に伝える姿勢が求められる。一生懸命悩みましょう。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

４単位	１年次	**小林　秀行**

１．授業の概要・到達目標
この講義の趣旨は、学習を通して、課題の発見･情報の入手･情報の整理･プレゼンテーション･レポート作成など、大学における学びの技法についての習得と実践を図ることにあり、そのための題材として「災禍をめぐるコミュニケーション」というテーマを設定しています。したがって講義の到達目標は、災害についての学びを深めるというよりは、大学での学び方を習得して頂きたいという意味で、「アカデミック・スキルの基礎を習得すること」「社会に対して自身なりの問いをもつこと」「問いを解決するために大学でどう学ぶかという道筋を見つけること」の３点とします。気候変動の影響を受けて世界的に増加傾向にある自然災害だけでなく、戦争や迫害、感染症、公害など、人類の歴史は「災禍（catastrophe）」と向き合い続けてきた歴史だともいうことができます。このような災禍はわれわれの生活を脅かし、時にはそのあり方を大きく変化させるため、様々な形のつながりを通し、その変化に対応しようとしてきたことは、現代社会の姿をみても理解できるところかと思います。この際、われわれは言語や絵画、音楽、映像、舞踊やモニュメントなど、多様な形のコミュニケーションを通して、災禍と向き合い、そして災禍の経験を継承しようと試みてきました。現代社会でコミュニケーションといえば、マスメディアやSNSがすぐに思い浮かんでくるかもしれませんが、このように社会の中で行われるコミュニケーションはきわめて多様であり、とりわけ人命がかかわる災禍をめぐっては、その1つ1つが試行錯誤のなかで紡ぎだされてきました。
本講義では、このような「災禍をめぐるコミュニケーション」について、皆さん自身が社会を見渡し、皆さん自身の視点で問題を発見し、それがどのような問題であるのか、なぜ問題となっているのかを分析し、解決に向けてどのような方策をたてればよいのかを考える、という一連の流れを体験的に学習していきます。春学期から秋学期のはじめにかけては、まず講義や映像作品、演習、文献輪読を通して災害に対する理解を深めて頂きます。その後、グループに分かれて独自にテーマを立て、そのテーマでは何が問題となっているのか、どのような解決策が考えられてきたのか、次に何を考えていけばいいのか、などを皆さん自身の手によってとりまとめていくことになります。以上のように、この講義では、災禍という観点から社会における課題を広くあつかいます。災禍の議論は、常に、それによって苦しむ人々の存在と向き合うことになり、決して明るい話題とは言えません。しかし、誰かがそうした問題を議論し、解決のための道筋を考えなければ、社会には苦しむ人々が残されたままとなります。本講義は、大学における学びの技法についての習得と実践を図ることを主たる目的としており、どのような学生の受講も妨げるものではありませんが、上記の趣旨に賛同し、こうした問題について学んでみたいという学生を特に歓迎します。

２．授業内容
【春学期】
第01回　イントロダクション
第02回　アイスブレイク
第03回　講義：災害研究入門
第04回　ブックレビューの報告①
第05回　ブックレビューの報告②
第06回　映像視聴①
第07回　映像視聴②
第08回　グループワーク①
第09回　グループワーク②
第10回　グループワーク③
第11回　グループワーク④
第12回　グループワーク⑤
第13回　グループワーク⑥
第14回　春学期のまとめ
【秋学期】
第15回　文献輪読①
第16回　文献輪読②
第17回　文献輪読③
第18回　文献輪読④
第19回　グループワーク①
第20回　グループワーク②
第21回　グループワーク③
第22回　グループワーク④
第23回　グループワーク⑤
第24回　グループワーク⑥
第25回　グループワーク⑦
第26回　グループワーク⑧
第27回　グループワーク⑨
第28回　最終報告会／振り返り
履修者数などにより、スケジュールの一部を変更することがあります。

３．履修上の注意
○本講義はグループワークを主体とするため、受講生の協力なしには成立しません。「居眠り」や「無言で座っている」などの行為は、履修の意志がないものとみなし、単位認定を行わないことがありますので注意してください。やむを得ない事情がある場合は担当教員に相談をするようしてください。
○本講義では、副教材としてoh-meiji上で「アカデミック・スキル講座」という講師作成の動画シリーズを講義と並行して配信します。
○本講義では、ゴールデンウイーク、夏休みなどの休暇期間中にも、おおむね文献を読むという形での課題を提示します。このような講義外である程度の負担があることを理解したうえで、受講してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：あらかじめ関連する報道・資料などを調べ、翌週の作業に備えておくこと。
　　oh-meijiを通じて公開する動画「アカデミック・スキル講座」を視聴すること。
復習：各回における資料や議論を整理し、発見した点や疑問点を明確にしておくこと。
その他として、本講義では例年、ゴールデンウイークおよび夏休みに課題（図書の購読）を課しています。
ゴールデンウイークの課題は新書2冊の購読および、その概要報告になります。

５．教科書
西村高宏(2023)『シリーズ臨床哲学6 震災に臨む 被災地での<哲学対話>の記録』大阪大学出版会

６．参考書
特になし。グループワークの進度に応じて、紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法
フィードバックについては、主としてoh-meijiを通じて全体向けに行う。

８．成績評価の方法
講義への主体的な参加（50%）、年度末レポート(4,000字以上)（50%）
各学期において4回以上の欠席をした場合、グループワークへの貢献がみられない場合など、講義に対する主体的な参加の意思が認められないと判断した場合には、上記の評価にかかわらず「不可」とします。

９．その他
①グループワークが主体となるため、ある程度、講義外での作業が必要となります。
②大学では他者から教わるのを待っていても、得られるものは最低限でしかありません。大学内外での積極的な活動を通じて、自分自身で知識と経験、そして物事をみる“目”を養う努力を期待します。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

４単位	１年次	**坂本　祐太**

１．授業の概要・到達目標
本ゼミナールでは、コミュニケーションの基本的なツールである「ことば」を題材に扱います。我々は日頃意識することなく「ことば」を上手く使いこなして他者とコミュニケーションをとっていますが、その「ことば」に意識的に焦点を当てることで、「身近なものに疑問を抱き、それを研究テーマとして扱う能力」を養うことを最終的な目標とします。
　１年間を通して文献の輪読に加えてグループワーク・ディスカッション・プレゼンテーションなどの活動を多く取り入れ、他者と共同する力を育みながら、受講者全員で「ことば」についての理解を深めていきます。例えば以下のようなものが、ゼミナールで扱うトピックとして考えられます。

・「「やばみ」などの若者言葉はどのようにして生まれるのか？」
・「ら抜き言葉は日本語の乱れなのか？」
・「なぜ日本人は英語が苦手なのか？」
・「キラキラネームは人生にどのような影響をもたらすのか？」
・「名字で呼ばれる人と名前で呼ばれる人の違いは何か？」

２．授業内容
第１回　イントロダクションーゼミの進め方などー
第２回　プレゼンテーションの方法
第３回　自己紹介①
第４回　自己紹介②
第５回　文献輪読・ディスカッション①
第６回　文献輪読・ディスカッション②
第７回　文献輪読・ディスカッション③
第８回　文献輪読・ディスカッション④
第９回　文献輪読・ディスカッション⑤
第10回　グループワークのテーマ設定１
第11回　グループワーク①
第12回　グループワーク②
第13回　グループワーク③
第14回　プレゼンテーション１
第15回　秋学期のゼミナールに関する案内
第16回　文献輪読・ディスカッション⑥
第17回　文献輪読・ディスカッション⑦
第18回　文献輪読・ディスカッション⑧
第19回　文献輪読・ディスカッション⑨
第20回　文献輪読・ディスカッション⑩
第21回　グループワークのテーマ設定２
第22回　グループワーク④
第23回　中間発表
第24回　グループワーク⑤
第25回　グループワーク⑥
第26回　プレゼンテーション２
第27回　レポートのピアレビュー①
第28回　レポートのピアレビュー②

３．履修上の注意
ディスカッションやメンバーを入れ替えながらのグループワークを多く取り入れるため、積極的な姿勢を持って参加することが望ましい。また、プレゼンテーションの担当になった場合は、責任をもって準備を行うこと。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
＜予習＞発表の準備・教科書の精読など　＜復習＞授業内で学んだこと及び疑問に思ったことの整理

５．教科書
指定しない（資料配布）。もし教科書を使用するようになった場合には、ゼミナール開始時までに別途案内する。

６．参考書
ゼミナール内で指示する。

７．課題に対するフィードバックの方法
ゼミナール科目なので、メール等で個別に行う。

８．成績評価の方法
授業への貢献度 60%、プレゼンテーション20%、レポート20%

９．その他
教員担当の「言語学」の授業を併せて履修すると、ゼミでの活動に有益かと思います。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	清水　晶紀

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】「明大前」を解剖してみよう
みなさんにとって、「明大前」という地域のイメージは、どのようなものでしょうか。和泉キャンパスの所在地、新宿渋谷へのアクセス至便、杉並区と世田谷区の境界、、、いずれにしても、明大前地域がみなさんの大学生活の場であることは間違いありません。
そこで、本ゼミナールでは、大学生活の場としての明大前地域に焦点を当て、その特徴を深堀りするとともに、魅力を発信してみたいと考えています。
具体的には、明大前地域に関係する研究テーマをみなさん自身が設定した上で、文献・資料調査や現地踏査、聞き取り調査などを通じ、地域の変遷や特徴の一端を明らかにするとともに、抱えている課題やその解決策を考え、最終的には何らかの企画を通じて実践してみたい（そのことを通じて魅力を発信してみたい）と思います。
また、以上のような作業を通じて、文献や資料の調査方法、レジュメの作成方法、基礎的な思考方法およびゼミでの議論方法など、「大学での学び」に必要なアカデミックスキルについても学んでいただきたいと思います。
「明大前はどんな地域なのか」という、みなさんの大学生活とも密接に関わる問題を入口に、学問の世界を一緒に覗いてみませんか。
なお、本ゼミナールにおける企画は、明大前商店街振興組合さまや京王電鉄さま等のご協力を得て実施する予定です。昨年度は、「明大前商店街ウマいものマップ」を作成し、「ウマいフォトコンテスト明大前」企画を実施しました。https://meijinow.jp/meidainews/information/89489
【到達目標】
・明大前地域の特徴を理解できていること。
・明大前地域の課題を把握し、地域の特徴を踏まえてその解決策を考察できること
・明大前地域と明治大学（生）との関係性について論理的に分析できること

2．授業内容
1．イントロダクション（自己紹介・ゼミの進め方）
2．レジュメ作成・研究報告の作法
3．先輩方の取り組み成果報告とテーマ案に係るブレーンストーミング
4．『地域学をはじめよう』輪読①
5．『地域学をはじめよう』輪読②
6．『地域学をはじめよう』輪読③
7．『地域学をはじめよう』輪読④
8．各自の関心に沿った現地踏査
9．ゲストスピーカー講義（明大前商店街振興組合さま）
10. 研究テーマの選定と研究内容の検討
11. 基礎調査①－先行研究調査
12. 基礎調査②－明大前地域調査
13. 基礎調査③－他大前地域調査
14. 課題の把握・夏休み地元調査の準備
15. 夏休みの振り返りと後期の進め方
16. 夏休み地元調査の分析
17. 課題解決に向けた企画内容の検討
18. 研究交流祭準備①
19. 研究交流祭準備②
20. 情コミ研究交流祭
21. 企画準備①
22. 企画準備②
23. 企画の実施
24. 研究交流祭の振り返りと企画の分析
25. プレゼンテーション作成①
26. プレゼンテーション作成②
27. 研究成果報告会
28. 報告会の振り返りと1年間のまとめ
※各回の割り振りはあくまで一例であり、詳細はゼミ生との相談で最終決定します。

3．履修上の注意
・ゼミの一環として、現地踏査や実地調査を行うことがあります。その際には、演習時間外に実施する可能性があり、一定の費用がかかる可能性もあります。また、参加者のみなさんの希望によっては、ゼミ合宿の実施を検討します。
・聞き取り調査や企画準備にあたっては、外部の方とのやりとりが不可避的に発生します。電話やメールへの速やかな返信、ホウレンソウ（報告・連絡・相談）、時間厳守など、社会人としての最低限のマナーを守ってください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
報告・議論等の準備は、ゼミ時間外に行うことになります。
また、担当教員としては、ゼミで企画する各種イベントへの参加も、広い意味で「学習」の一環と考えています。

5．教科書
山下祐介『地域学をはじめよう』（岩波ジュニア新書・2020）
（教科書はゼミ費で購入予定ですので、開講前に個人で準備する必要はありません。）

6．参考書
除本理史・佐無田光『きみのまちに未来はあるか』（岩波ジュニア新書・2020）
吉本哲郎『地元学をはじめよう』（岩波ジュニア新書・2008）
佐藤望編著『アカデミック・スキルズ（第3版）』（慶應義塾大学出版会・2020）
本多勝一『中学生からの作文技術』（朝日選書・2004）
その他、適宜指示します。

7．課題に対するフィードバックの方法
ゼミナール形式のため、学生による報告や議論については、そのタイミングで適宜フィードバックを行います。

8．成績評価の方法
ゼミは学生主体のクラスのため、出席は当然の前提です。その上で、ゼミでの報告内容（50%）、議論への参加状況（30%）、レポート内容（20%）を総合的に評価します。

9．その他
「ゼミの主役」は学生であり、ゼミを楽しくするのも、つまらなくするのも、みなさん次第です。担当教員は極力発言を控え、サポート役に徹したいと思います。「よく学び、よく議論し、よく遊ぶ」みなさんの履修を歓迎します。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	須田　　努

1．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
皆さんは、高校生まで世界史･日本史という科目を学んできました。教科書は、制度と政治の歴史が中心であり、すでに答えはきまっていて、面白くも無い暗記科目という位置づけでした。このゼミは歴史学を勉強するものです。
大学での学問としての歴史学は、過去の事象・出来事を分析し、そこから現代社会を相対化するものです。はたして、今がもっとも“よい”のでしょうか。さらに、それは“誰に”とって“よい”状況なのでしょうか。こう考えると、歴史の見方が変わってきます。
もっと“よい”未来があるのではないか、と疑問をもち過去に向き合うのが歴史学という学問です。さて、“誰に”という問題が残りました。これをじっくり考えてゆきましょう。大学の勉強とは何か、研究とは何かを学ぶゼミです。

【授業の到達目標】
そのために、以下の能力を習得します。
①研究論文　専門書を理解する。
②正確にデータ・史料を読解する。
③自分の意見を論理的に他者に伝える。
④多様性を尊重し、他者と議論する。

2．授業内容
第１回：イントロダクション＜春学期＞
第２回：専門書を読む①
第３回：専門書を読む②
第４回：レジュメを作成する①
第５回：プレゼンを行う
第６回：共通テーマ設定
第７回：共通テーマについての文献探索
第８回：共通テーマ報告　デスカッション①
第９回：共通テーマ報告　デスカッション②
第10回：共通テーマ報告　デスカッション③
第11回：共通テーマ報告　デスカッション④
第12回：共通テーマ報告　デスカッション⑤
第13回：共通テーマ報告　デスカッション⑥
第14回：春学期総括
第15回：共通テーマ設定
第16回：共通テーマについての文献探索
第17回：共通テーマ報告　デスカッション①
第18回：共通テーマ報告　デスカッション②
第19回：共通テーマ報告　デスカッション③
第20回：共通テーマ報告　デスカッション④
第21回：共通テーマ報告　デスカッション⑤
第22回：共通テーマ報告　デスカッション⑥
第23回：共通テーマ報告　デスカッション⑦
第24回：共通テーマ報告　デスカッション⑧
第25回：共通テーマ報告　デスカッション⑨
第26回：共通テーマ報告　デスカッション⑩
第27回：共通テーマ報告　デスカッション⑪
第28回：秋学期総括

3．履修上の注意
わたしは現役の研究者であり、このゼミは勉強するためのものです。考えること、議論することに真摯な態度で望みましょう。そこから思考・思索の力、教養を高めることが可能となります。
無断欠席はしないこと。自己の報告回を無断欠席した場合は不可となります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習は、授業の進行、共通テーマの選定に応じて指示します。思考・思索の力、教養を高めたいと望むならば、復習に重点を置きましょう。

5．教科書
共通のテキストをゼミメンバーで選定します。

6．参考書
須田努・清水克行編『現代を生きる日本史』岩波文庫、2022年

7．課題に対するフィードバックの方法
ゼミの中で行います。

8．成績評価の方法
ゼミへの積極的参加（発言・議論）50%
プレゼン・報告レジュメ　50%

9．その他
大学は勉強する場です。せっかく情コミに入ったのです勉強しましょう。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	**大黒　岳彦**

1．授業の概要・到達目標
大学でのこれからの4年間をどういう心構えで過ごしたらよいか、また大学生活を充実させるための基本的なリテラシー（資料検索、資料アクセス、討論、発表、討議、プレゼン、文書作成）の基礎を伝授します。
基礎ゼミナールは、高校から大学への橋渡しの位置付けなので、できるだけ素材は受講生に馴染みやすいものを選ぶよう心懸けるつもりです。

2．授業内容
前期は映像を素材として使用し、後期は文書を素材として使用します。いずれも簡単なアウトプットができるところまで進みたい。
前期
1　自己紹介（1）
2　自己紹介（2）
3　映像の文法――映画（1）
4　映像の文法――映画（2）
5　映像の文法――映画（3）
6　映像の文法――CM（1）
7　映像の文法――CM（2）
8　映像の文法――CM（3）
9　映像の文法――写真（1）
10　映像の文法――写真（2）
11　映像の文法――写真（3）
12　映像制作（1）
13　映像制作（2）
14　映像制作（3）
後期
1　映像制作（発表1）
2　映像制作（発表2）
3　資料アクセス（1）
4　資料アクセス（2）
5　文献の読み方（1）
6　文献の読み方（2）
7　文献の読み方（3）
8　AIとの付き合い方（1）
9　AIとの付き合い方（2）
10　文書作成（1）
11　文書作成（2）
12　文書作成（3）
13　文書作成（4）
14　まとめ

3．履修上の注意
ワークショップ的なカリキュラムになりますので、出席を重視します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
数回に一度、簡単な課題を出します。

5．教科書
特になし。

6．参考書
授業の中でその都度挙げます。

7．課題に対するフィードバックの方法
授業の中で口頭で行います。

8．成績評価の方法
アウトプット50%、授業中のパフォーマンス50%

9．その他
特になし。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	**竹中　克久**

1．授業の概要・到達目標
現代社会は高度情報社会である、といわれて久しいですが、私たちが日頃ふれている情報とは何でしょうか？
新聞、TV、インターネット上では統計などの量的データや、インタビューや投書などの質的データがあふれかえっています。正しい情報に行き着こうにも、「情報の洪水」のなかでは、どれを「正しい」ととらえれば良いのか難しい時代に私たちは生きています。そのような状況において、社会は今どうなっているのか、どのように変わってきたのか（あるいは変わっていないのか）ということを考える際には、自分なりの「モノの見方」を身につけることが重要になってきます。
本ゼミナールでは、主として社会学的な「モノの見方」をともに学びたいと考えています。春学期は文献や資料を輪読しながら、ディスカッション能力を養っていきます。秋学期には、身近なテーマを取り上げ、グループを編成し協力して研究を進め、プレゼンテーション能力を身につけていきます。
春学期・秋学期を通じて、「社会学的なモノの見方」の基礎を身につけることが到達目標になります。

昨年度扱った社会問題のテーマ（一部）
教育の社会問題：性教育の是非、教師と社会、教育格差
生と死の社会問題：死刑制度、少子化
その他の社会問題：ルッキズム、子供の騒音、カスハラ

グループ研究のテーマ（一部）
「死の再定義とその未来」「児童の食生活と家庭内環境」「SNSにおける歪んだ正義感」「公立中学校教員の抱える問題」

2．授業内容
第1回　イントロダクション：社会学とは何か
第2回　社会問題についてのディスカッション1
第3回　社会問題についてのディスカッション2
第4回　社会問題についてのディスカッション3
第5回　社会問題についてのディスカッション4
第6回　社会問題についてのディスカッション5
第7回　社会問題についてのディスカッション6
第8回　社会問題についてのディスカッション7
第9回　社会問題についてのディスカッション8
第10回　社会問題についてのディスカッション9
第11回　社会問題についてのディスカッション10
第12回　社会問題についてのディスカッション11
第13回　社会問題についてのディスカッション12
第14回　中間まとめ――秋学期に向けて
第15回　グループ分け・テーマ設定1
第16回　グループ研究1
第17回　グループ研究2
第18回　中間発表1
第19回　グループ研究3
第20回　グループ研究4
第21回　最終プレゼンテーション1
第22回　グループ分け・テーマ設定2
第23回　グループ研究5
第24回　グループ研究6
第25回　中間発表2
第26回　グループ研究7
第27回　グループ研究8
第28回　最終プレゼンテーション2およびまとめ
※内容は必要に応じて変更することがある。

3．履修上の注意
社会問題・時事問題について普段から関心を持っていることが参加条件である。
また、「社会学」というモノの見方に興味を持っている学生が好ましい。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
事前にOh-o!Meijiにupされた資料を熟読し、ゼミに臨むこと。
グループ研究においては、メンバーと分担し、事前に綿密な準備を行うこと。

5．教科書
教科書は基本的に使用しない。毎回資料を事前にOh-o!Meijiにupする。

6．参考書
使用の予定はない。

7．課題に対するフィードバックの方法
中間発表・最終プレゼンテーションにおいてフィードバックを行うほか、年度末にはマイカリキュラムについてのフィードバックを行う。

8．成績評価の方法
平常点（ディスカッションへの貢献度等）50%、プレゼンテーション50%

9．その他
物事について深く考えるのが好きな学生、物事を疑ってかかる学生を歓迎します。また、ゼミナールの一員になった折には、ディスカッションやプレゼンテーションに主体的に関わることを強く求めます。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

４単位	１年次	田中　洋美

１．授業の概要・到達目標
ゼミナールのテーマ：メディアとジェンダー研究入門
　私たちの多くは日々メディアに接し、それ無くして生きることは難しいほどです。自ら接する際に目にしたり感じたり、体験することを通じて、色々なことに気づいたり、知ることもできますが、それだけでは学術的な研究とは言えません。では、学術的なメディアの研究とはどのようなものでしょうか。どうすればそれを身につけ、自ら行うことができるでしょうか。
　この基礎ゼミナールは、メディア研究、ジェンダー研究それぞれの重要なサブ領域の一つであるメディアとジェンダー研究の入門です。1年生対象の授業であることから、学術研究の「作法」についても学習します。
　メディアとジェンダーの研究は、半世紀ほど前に始まりました。当初は主にマスメディアを対象としていましたが、近年はソーシャルメディアなどの普及もあり、研究の対象や方法、理論・アプローチも多様になっています。本授業で、その全てを扱うことはできませんが、大まかな流れをつかみ、基礎的な概念・理論・方法を学びます。最終レポートでは、自ら設定したテーマ･問題に取り組みます。

２．授業内容
第１回　ガイダンス、授業概要の説明、顔合わせ
第２回　ジェンダーとメディア研究とは？
第３回　メディア表象（１）
第４回　メディア表象（２）
第５回　メディア表象（３）
第６回　メディア産業
第７回　オーディエンス
第８回　中間のまとめ
第９回　ポピュラーカルチャー（１）
第10回　ポピュラーカルチャー（２）
第11回　インターセクショナリティ
第12回　ソーシャルメディア
第13回　デジタルテクノロジー
第14回　まとめの議論、レポート提出

秋学期
第14回　ガイダンス、前期の振り返りと今学期の授業計画の確認
第15回　社会調査法概論
第16回　調査計画書の作成（１）
第17回　調査計画書の作成（２）
第18回　データ収集（１）
第19回　データ収集（２）
第20回　データ整理（１）
第21回　データ整理（２）
第22回　データ分析（１）
第23回　データ分析（２）
第24回　分析結果のまとめ、口頭発表の準備、報告書の作成（１）
第25回　分析結果のまとめ、口頭発表の準備、報告書の作成（２）
第26回　分析結果のまとめ、口頭発表の準備、報告書の作成（３）
第27回　研究発表、報告書の作成
第28回　まとめの議論、報告書の提出

３．履修上の注意
予備知識は不要ですが、問題意識を持って授業に臨んでください。
課外での取り組みがありますので、十分時間を確保してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
文献の講読、議論や発表のための準備、その他課題の取り組みなど、毎回の授業の内容に沿った事前学習があります。

５．教科書
林香里・田中東子編、2023、『ジェンダーで学ぶメディア論』世界思想社

６．参考書
授業での議論内容をみて指示します。

７．課題に対するフィードバックの方法

８．成績評価の方法
授業への貢献度（授業態度、課題への取り組み等）50％
最終レポートの内容（授業内容の理解度、目的の達成度）50％

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

４単位	１年次	田村　　理

１．授業の概要・到達目標
　このゼミでは、「『ことば』からみえる私達の社会・文化の特徴」を他国や他の時代との比較で考えていきます。
　例えば、柳父章『翻訳語成立事情』（岩波新書･1982年）によれば、「恋愛」「彼、彼女」という言葉は、日本語には無い言葉でした。「社会」「個人」「権利」「自由」など私の専門である憲法学で使うキーワードも日本語にはありませんでした。これらは外国語からの翻訳語として成立しました。言葉が無かったと言うことは、その社会は対応する観念と現実をそもそも持たなかったことを意味します。
　春学期は柳父章『翻訳語成立事情』を読みながら、なぜどんな事情でこれらの言葉が私たちと私達の社会で必要になったのか、そのためにどのようにこれらの観念は吸収されたのかを考え、私たちの社会と文化の特徴をさぐります。
　その過程で、社会問題の分析の仕方、学問的な主張の仕方を身につけます。その上で､私達の社会の特徴を考えるのにふさわしい「ことば」(＝テーマ）を自分で見つけてもらいます。
　秋学期は、自分で見つけた「ことば」を題材に私達の社会と文化の特徴を分析・検討して、各自報告し、レポートにまとめていきます。その過程で報告の仕方、批判の仕方、批判への対応の仕方を身につけ、学術レポートの書き方も学びます。

２．授業内容
＜春学期＞
第１回：このゼミの目的と目標
第２回：大学で「読み・考え・主張する」方法
第３回～第６回：テキストを読み、議論する（前半）
第７回：自分で選ぶテーマと「ことば」を報告する（１回目）
第８回～第12回：テキストを読み、議論する（後半）
第13回・第14回：自分で選ぶテーマ＝「ことば」報告する（２回目）
＜秋学期＞
第15回：秋学期の課題の確認と報告の方法
第16回～第21回：「『ことば』からみえる私達の社会・文化の特徴」についての報告（１回目）
第22回：レポートの書き方
第23回～第28回：「『ことば』からみえる私達の社会・文化の特徴」についての報告（２回目）

３．履修上の注意
　言われたこと、与えられた課題をおぼえればすむこれまでの学習とは違う大学での「学び」を身につけてもらうゼミにしたいと思います。
　出席して、言われたことをやっているだけの参加者には単位を出しません。
　自分がこれまで蓄えてきたものとはちがう、新しい知識と価値観、新しい学びの方法を身につけるために積極的に取り組む意思をもって受講してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
　テキストの読解を進める時には、必ずすべてのゼミ生に該当箇所の内容についての文章で簡単な要約を作って提出してもらいます。
　また、ゼミ中に参加者からだされた意見や質問についても、必ずそれに対するフィードバックを文章に残して提出してもらうこととします。

５．教科書
柳父章『翻訳語成立事情』（岩波新書・１９８２年）

６．参考書
参考文献は、必要に応じて指示します。

７．課題に対するフィードバックの方法
　課題は必ずゼミの時間中に全員で共有し、それに対するフィードバックも原則として授業中に行って参加者全員で共有することにします。
　授業時間中にフィードバックの時間が十分にとれない場合や、各ゼミ生からの個別の質問等はその都度口頭またはメール等で丁寧にフィードバックしていきます。

８．成績評価の方法
○以下の配点で成績評価をします。
　ゼミ中の発言・質問・応答：４０点
　ゼミ中の提出物：３０点
　学年末提出の小レポート（テーマ：「『ことば』からみえる私達の社会・文化の特徴」）３０点
　　＜＊レポートの詳細についてはゼミ中に指示します。＞
※正当な理由を事前に知らせないままの遅刻・欠席は減点します。
　また、全体の三分の一以上欠席した場合は、単位認定をしません。

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

４単位	１年次	**陳　　予茜**

１．授業の概要・到達目標

家族は私たちにとって身近な存在であるが、「家族」という言葉はいったい何を指すのか、どのような条件のもとで形成するものなら家族と呼べるのか、これらの問題を考える機会は案外少ない。特に現代社会では、平均初婚年齢の上昇、生涯未婚率の増加、合計特殊出生率の低下に伴い、晩婚化、未婚化、少子高齢化といった現象は「社会問題」として世間の注目を集めている。それと同時に、個人のライフコースの多様化、同性婚の法制化、SOGIをめぐる人権問題といった新たな課題も浮かんできた。

本基礎ゼミナールは、上述した諸現象・諸問題についての理解を深めることを目的とする。授業では、私たちの日常生活と密接するテーマ――恋愛、結婚、子育て、夫婦関係、親子関係を取り扱い、歴史的と国際的な比較を行う。こうした作業を通して、家族の変容、実態、メカニズムはもちろんのこと、私たちが「当たり前」と考えている家族の諸像を問い直すことも可能である。なお本授業は文献講読、ディスカッション、グループワークを中心に行う。

２．授業内容

第１回：イントロダクション（春学期）
第２回：文献講読、レジュメ、レポートの方法
第３回：文献講読と発表（１）
第４回：文献講読と発表（２）
第５回：文献講読と発表（３）
第６回：文献講読と発表（４）
第７回：文献講読と発表（５）
第８回：中間報告とディスカッション
第９回：文献講読と発表（６）
第10回：文献講読と発表（７）
第11回：文献講読と発表（８）
第12回：文献講読と発表（９）
第13回：文献講読と発表（１０）
第14回：期末報告とディスカッション

第１回：イントロダクション（秋学期）
第２回：文献講読と発表（１）
第３回：文献講読と発表（２）
第４回：文献講読と発表（３）
第５回：文献講読と発表（４）
第６回：文献講読と発表（５）
第７回：中間報告とディスカッション
第８回：文献講読と発表（６）
第９回：文献講読と発表（７）
第10回：文献講読と発表（８）
第11回：文献講読と発表（９）
第12回：文献講読と発表（10）
第13回：文献講読と発表（11）
第14回：期末報告とディスカッション
履修者数などにより、授業内容の一部を変更することがあります。

３．履修上の注意

予備知識は不要ですが、家族やジェンダーなどに興味、関心を持つことを望みます。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

当番制で文献講読を行うため、発表担当の学生は事前に文献を読み、レジュメかパワーポイントを作る必要があります。発表担当ではない学生は事前に文献を読み、文献内容について質問や解釈ができるように準備する必要があります。

５．教科書

落合恵美子、『21世紀家族へ』、ゆうひかく選書
岩上真珠、『ライフコースとジェンダーで読む家族（第３版）』
岩上真珠編著、『＜若者と親＞の社会学』、青弓社
NHK放送文化研究所編、『現代社会とメディア・家族・世代』、新曜社

６．参考書

随時に紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法

授業中にコメントやアドバイスする。

８．成績評価の方法

出席40%、発表30%、レジュメやパワーポイント30%

９．その他

特になし

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

４単位	１年次	**塚原　康博**

１．授業の概要・到達目標

この授業では、経済学やゲーム理論を用いて、現実の社会において企業が実際に採用している戦略の合理性について考える。授業の進め方は、各回の授業のテーマに沿った発表をゼミ生がパワーポイントを使って行い、その後、質疑応答に入る。さらに、その後、教員が補足説明をして、質疑応答に入る。春学期と秋学期それぞれの最後の2回分については、この授業で扱った内容に関係したテーマもしくはゼミ生自身が関心を持ったテーマについて、順番に発表してもらう。

この授業を通じて、ゼミ生に物事を論理的に考える思考を身につけてもらうこと、現実の経済や社会についての知識を深めてもらうこと、人の話を聞き、自分の話を正確かつわかりやすく相手に伝えるコミュニケーション能力を身につけてもらうことを目標とする。

２．授業内容

第１回　春学期イントロダクション
第２回　学割の存在理由
第３回　吉野家の価格戦略
第４回　映画や本の時間を通じた価格差別戦略
第５回　化粧品、車の顧客ターゲット戦略
第６回　コストコの2部料金戦略
第７回　ユニクロのSPA戦略
第８回　問屋の存在理由
第９回　キリンビールのシェアが低下した理由
第10回　コカコーラの自販機戦略
第11回　サントリーのセサミンのネット戦略
第12回　ネットフリックスのサブスクリプション戦略
第13回　プレゼンテーション（１）
第14回　プレゼンテーション（２）
第15回　秋学期イントロダクション
第16回　ゲーム理論と囚人のジレンマ
第17回　繰り返しゲームと日本の長期的な雇用・取引関係
第18回　生物学的ゲームとオウム返し戦略
第19回　第3者の介入による協調関係の維持
第20回　大きな町と小さな町の出店戦略
第21回　弱いものが勝つケース
第22回　オークションと勝者の呪い
第23回　タクシードライバーの給与の報酬体系（固定給か歩合給か）
第24回　預金でペイオフを行う理由
第25回　新卒者、広告におけるシグナルによる質の判断
第26回　フレーミングと消費者の選択
第27回　プレゼンテーション（１）
第28回　プレゼンテーション（２）

３．履修上の注意

現在の経済や社会について関心を持ち、授業では、質疑応答に積極的に参加し、発表の際には十分な準備をしておくことが求められる。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業で取り上げる教科書の部分をあらかじめ熟読しておき、わからない点については、教員に質問をすることが必要である。「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」を受講することが望ましい。

５．教科書

『ビジネス・エコノミクス（第2版）』伊藤元重（日本経済新聞出版）2021年

６．参考書

使用しない。

７．課題に対するフィードバックの方法

各回の授業のテーマを各ゼミ生に割り当て、それついてのパワーポイントを作成し、授業内で発表することがゼミ生にとっての課題となる。それについてのフィードバックは、発表時の授業内で行う。

８．成績評価の方法

発表70%、質疑応答30％で評価する。

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	内藤　まりこ

1．授業の概要・到達目標

【授業の概要】

小説や映画、演劇、漫画やアニメ、絵画等、私達の周囲にはさまざまな表象作品が生み出され、流通しています。本ゼミナールでは、そうした作品を学術的に捉える手法を学習します。

春学期には、それぞれの表象作品に表現されているさまざまな存在の〈身体〉に着目し、それらの作品において〈身体〉がどのように意味づけられているのかを検討することで、作品の表現を読み解く方法を体得することを目指します。

秋学期には、現代で流通する表象作品には日本の古典を基にしたものが多く存在することから、そうした日本古典の作品を読み解き、学術的に研究する手法を学習します。具体的には、日本古典を詩歌・散文・芸能の３ジャンルに分け、書誌学・文学理論・歴史学・比較研究の４つの研究方法から、日本古典作品を読み解いていきます。

また、本ゼミナールでは、論述文の書き方も合わせて学習します。大学生活において論述文を書く機会としてすぐに思いつくのは、レポートや卒業論文の執筆でしょう。しかし、論述文を書くのは大学時代だけではありません。社会に出てからも、私たちは論述文を書き続けることになるのです。なぜなら、私たちは日々自分とは異なる考えや経験、背景を持つさまざまな人々に出会っており、論述文とは、そうした人々に自分の考えを正確に、わかりやすく伝えるための文章の形だからです。そこで、本ゼミナールでは、レポートを実践例とし、どのように自分の思考を組み立て、文章にすればよいのかを学びます。

【授業の到達目標】

授業を通して学習した表象作品を読み解くため専門的な知識と技術を以て、自ら作品を選んで分析を行い、分析結果に基づく考察を学期末レポートにまとめます。

2．授業内容

(春学期)
第１回：オリエンテーション
第２回：表象分析１：〈身体〉を理論化する（１）
第３回：表象分析２：〈身体〉を理論化する（２）
第４回：表象分析３：〈身体〉を理論化する（３）
第５回：表象分析４：〈身体〉を理論化する（４）
第６回：表象分析５：〈身体〉表現を分析する（１）
第７回：表象分析６：〈身体〉表現を分析する（２）
第８回：表象分析７：〈身体〉表現を分析する（３）
第９回：表象分析８：〈身体〉表現を分析する（４）
第10回：論述文の書き方の学習１：論文の構成要素
第11回：論述文の書き方の学習２：アウトラインの作成
第12回：論述文の書き方の学習３：パラグラフ・ライティングの学習
第13回：論述文の書き方の学習４：引用方法の学習
第14回：論述文の書き方の学習５：わかりやすい文章の書き方の学習
(秋学期)
第１回　オリエンテーション
〈詩歌編〉
第２回　詩歌への書誌学的アプローチ
第３回　詩歌への文学理論からのアプローチ
第４回　詩歌への歴史的アプローチ
第５回　詩歌への比較によるアプローチ
〈散文編〉
第６回　散文への書誌学的アプローチ
第７回　散文への文学理論からのアプローチ
第８回　散文への歴史的アプローチ
第９回　散文への比較によるアプローチ
〈芸能編〉
第10回　芸能への書誌学的アプローチ
第11回　芸能への文学理論からのアプローチ
第12回　芸能への歴史的アプローチ
第13回　芸能への比較によるアプローチ
第14回　ゼミの振り返り

3．履修上の注意

・ほぼ毎回課題の提出を求める。課題は成績評価の対象となる。
・グループに分かれて課題に取り組む場合がある。
・欠席をした場合は、次週までにクラスウェブの「授業内容・資料」から授業内容を確認し、授業プリントをダウンロードしておくこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

ほぼ毎週、宿題が課される。
宿題の内容は、作品の読了もしくは視聴、参考資料の読解等である。

5．教科書

毎週、授業プリントを配布する。

6．参考書

適宜、指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法

リアクション・ペーパー、メール、個別面談

8．成績評価の方法

・授業内課題　20%
・授業内発表　30%
・学期末レポート50%

9．その他

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	中里　裕美

1．授業の概要・到達目標

本ゼミナールでは、「ソーシャル・キャピタル」――『人々の協調的な行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることができる、「信頼」、「規範」、「ネットワーク」といった社会的仕組みの特徴』と定義され、社会関係資本と訳される――をテーマとします。このように人と人とを結びつけるソーシャル・キャピタルは、教育や健康、市民活動、企業活動、政府と民主主義など重要な経済・社会的事象と深く結びついています。本ゼミナールでは、ソーシャル・キャピタルにかんする基礎知識を習得してもらうとともに、私たちの日常生活における重要な経済・社会事象をソーシャル・キャピタルとのかかわりから検討してもらうことをねらいとします。

春学期は、テキストの輪読を通して、ソーシャル・キャピタルの基礎的な事柄にかんする理解を深めてもらいます。輪読は、受講生をいくつかのグループに分けて、「レジュメ」を用いた報告を行ってもらいます。そして受講生は、「経済・社会的な課題（テーマ）」にかんする興味・関心領域別のグループに分かれて、秋学期にむけた「研究計画書」を作成し、発表してもらいます。

秋学期は、ひきつづきグループ単位で、春学期に選定した「経済・社会的な課題（テーマ）」とソーシャル・キャピタルとの関係について、文献研究や先行調査からの知見を整理するとともに、それらの研究の弱点や強みを探し出し、それをどのように克服できるかを検討します。またその成果を授業内にて発表し、「成果報告レポート」としてまとめてもらいます。

【到達目標】

一年間の授業を通して、大学生活を送るために必要となる文章読解力、レジュメの作成法やプレゼンテーション技法、文献資料やデータの探し方から論文の組み立て方の基礎までを身につけてもらうことを目指します。

2．授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　社会関係資本とは何か（テキスト1章）
第３回　信頼・規範・ネットワーク（テキスト第2章）
第４回　社会関係資本は何の役に立つのか（テキスト第3章）
第５回　何がかたちづくるのか、どう測るのか（テキスト第4章）
第６回　健康と福祉の向上（テキスト第5章）
第７回　社会関係資本の男女差（テキスト第6章）
第８回　社会関係資本を壊す（テキスト第7章）
第９回　社会関係資本のダークサイド、豊かな社会関係資本を育むために（テキスト第8・9章）
第10回　調査研究のテーマ決め、研究計画の立て方、論文検索のし方
第11回　グループワーク①
第12回　グループワーク②
第13回　研究計画書の発表①
第14回　研究計画書の発表②
第15回　イントロダクション（春学期のふりかえりと秋学期の進め方など）
第16回　夏休みの課題の報告
第17回　社会調査の基礎①
第18回　社会調査の基礎②
第19回　グループワーク①
第20回　グループワーク②
第21回　中間報告会
第22回　グループワーク③
第23回　グループワーク④
第24回　進捗報告会
第25回　グループワーク⑤
第26回　グループワーク⑥
第27回　成果報告会①
第28回　成果報告会②
履修者数などにより、授業内容の配分を変更することがあります。

3．履修上の注意

ゼミ形式のため、期末レポートともに、出席や平常点を重視します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

発表担当でない時も、必ず文献を精読し、自分なりに十分な議論ができる準備をしてゼミに出席すること。また、グループ研究においては、メンバーと分担し、事前に綿密な準備を行うこと。

5．教科書

『ソーシャル・キャピタル入門―孤立から絆へ』稲葉陽二著 (中公新書) 2011年
※初回の授業にて教科書を配布する予定のため、個人で事前に購入しないようにして下さい。

6．参考書

『新・社会調査へのアプローチ―論理と方法』大谷信介・木下栄二・後藤範章他編著 (ミネルヴァ書房) 2013年
『ソーシャル・キャピタルと社会―社会学における研究のフロンティア』佐藤嘉倫著（ミネルヴァ書房) 2018年

7．課題に対するフィードバックの方法

各報告に対するフィードバックは、授業内等にて行います。

8．成績評価の方法

平常点50%、期末レポート50%

9．その他

普段から社会問題・時事問題について関心を持つように心がけることが望まれます。また、とくに秋学期からはグループ単位で行なう課題が中心になるため、他の受講生と協働しつつ、積極的かつ主体的に取り組む意欲のある学生の参加を期待します。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	**中臺　希実**

1．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
　受験勉強における「歴史」と大学で学ぶ「歴史」に何の違いがあるのか、さらに現代において「歴史」を学ぶことにどんな意味があるのかを念頭におきながら、江戸時代のメディア（浄瑠璃や歌舞伎）を中心に、家族、恋愛、ジェンダーに関する認識の形成と変遷を知り、「伝統」や「○○らしさ」などが意図的に作られたものであること理解し、なぜそのような認識が再生産されるのか、私達と社会の関係性を考える。まずは、答えを暗記する日本史や世界史の授業とは違う、自分で疑問を持ち、その問いへの返しを自分で探していきましょう。
【授業の到達目標】
・正確に史料・文献を読み、必要な参考文献を収集する力の習得
・自分の意見を論理的に他者に伝えることが出来る
・他者の報告に対し、建設的な意見を述べることが可能となる。

2．授業内容
第１回：イントロダクション＜春学期＞
第２回：レジュメ・レポートの作成方法について①
第３回：歴史史料としてのメディア
第４回：江戸時代の「家」と「所帯」／近代以降の「家族」
第５回：史料を読む①江戸時代のメディアからみる「親子」関係（１）
第６回：史料を読む②江戸時代のメディアからみる「親子」関係（２）
第７回：報告とディスカッション①
第８回：報告とディスカッション②
第９回：江戸時代の社会とジェンダー
第10回：史料を読む③江戸時代のメディアからみる感情とジェンダー規範
第11回：史料を読む④江戸時代のメディアからみる感情とジェンダー規範
第12回：報告とディスカッション③
第13回：報告とディスカッション④
第14回：春学期総括

第15回：イントロダクション＜秋学期＞
第16回：近世社会とジェンダー（１）
第17回：近世社会とジェンダー（２）
第18回：史料を読む⑤江戸時代のメディアからみる恋とジェンダー
第19回：史料を読む⑥江戸時代のメディアからみる恋とジェンダー
第20回：論文講読と報告・ディスカッション⑤
第21回：論文講読と報告・ディスカッション⑥
第22回：史料を読む⑦江戸時代の家庭内暴力とジェンダー
第23回：史料を読む⑧江戸時代の家庭内暴力とジェンダー
第24回：報告・ディスカッション⑦
第25回：報告・ディスカッション⑧
第26回：史料を読む⑨江戸時代メディアから考える「愛」
第27回：報告・ディスカッション⑧
第28回：秋学期のまとめ

＊講義内容や報告順などに関しては、変更する可能性があります。

3．履修上の注意
考えること、議論することに対し、真摯な態度で講義に望んでください。基本的には江戸時代を対象にしますが、ゼミ生の興味関心によっては近現代のメディアを用いることもあります。
無断欠席はしないこと。自身の報告回に、無断欠席した場合は不可となります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
当番制でレジュメを作成し、報告してもらいます。
担当となった人は、報告テーマに関して、事前に十分な準備をしてください。また、自分以外の人が担当する報告についても、提示された参考文献などに必ずしっかりと目を通すようにしてください。
報告は必須です。

5．教科書
特に定めません。

6．参考書
『深読み浮世風呂』青木美智男（小学館）
『ジェンダー分析で学ぶ女性史入門』編総合女性史学会（岩波書店）
『深化する歴史学―史資料からよみとく新たな歴史像編歴史科学協議会（大月書店）

7．課題に対するフィードバックの方法
ゼミのなかで解説を行う。

8．成績評価の方法
出席、ゼミ報告での発表50％、報告レジュメ50％

9．その他
歴史学を通じ、現代社会における諸問題を考えることを望む学生を歓迎します。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	**波照間　永子**

1．授業の概要・到達目標
■演習テーマ
　芸術交流ワークショップ　－研究から創造・表現へ－
■授業内容
　現代社会は、国家や地域などの境界を越え、地球を一つの単位として捉えるグローバルな視点が重要だといわれています。
　このような時代においては、多種多様な異文化の特性を学び理解するとともに、日本の文化や芸術を深く掘り下げて研究し、世界の人々に向けて発信する力が求められます。
　本ゼミでは、芸術文化を研究するだけでなく、その成果をより良く伝えるための実践“創造＆表現”を通して、人と人とをつなぐ交流の有り方を探求します。
研究成果の発信：実践活動（2024年度予定）
　情報コミュニケーション学部が協力協定を結んでいる学生を授業時に受け入れて交流を行います。

2．授業内容
春学期の計画
第１回　春学期ガイダンス：授業計画・評価の方法, キャンパス案内
第２回　資料検索の方法, レジュメの作成方法
第３回　Nihongo Notes　レジュメ作成による発表①
第４回　Nihongo Notes　レジュメ作成による発表②
第５回　Nihongo Notes　レジュメ作成による発表③
第６回　Nihongo Notes　レジュメ作成による発表④
第７回　日本文化紹介ワークショップ（着付け実践）①
第８回　日本文化紹介ワークショップ（着付け実践）②
第９回　日本文化紹介ワークショップ（着付け実践）③
第10回　日本文化紹介ワークショップ（着付け実践）④
第11回　研究発表「私が紹介したい日本文化」①
第12回　研究発表「私が紹介したい日本文化」②
第13回　研究発表「私が紹介したい日本文化」③
第14回　研究発表「私が紹介したい日本文化」④
　　夏休みの課題（レポート）執筆の方法
秋学期の計画
第１回　秋学期ガイダンス：授業計画・夏休みの課題フィードバック
第２回　日本文化紹介ワークショップ（着付け・舞踊実践）①
第３回　日本文化紹介ワークショップ（着付け・舞踊実践）②
第４回　日本文化紹介ワークショップ（着付け・舞踊実践）③
第５回　日本文化紹介ワークショップ（着付け・舞踊実践）④
第６回　日本文化紹介ワークショップ（着付け・舞踊実践）⑤
第７回　個人研究の方法
第８回　個人研究発表（芸術に関するテーマを各自で設定）①
第９回　個人研究発表②
第10回　個人研究発表③
第11回　個人研究発表④
第12回　個人研究発表⑤
第13回　総括・振り返り
第14回　期末レポート課題の提示

3．履修上の注意
文献講読・レジュメを作成、日本文化紹介に関する口頭発表、個人研究とレポートの執筆、日本文化紹介の準備と実践、など「研究の基礎から実践」まで、一年間を通して経験してもらいます。そのため、熱意と意欲が求められます。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
授業時に配布するテキストの予習と復習を必須とします。また、レジュメの作成や口頭発表の準備などの課題を出します。

5．教科書
なし。授業時に必要な資料を配布します。

6．参考書
水谷 修（著）、水谷 信子（著）　Nihongo Notes vol. 1 Language and Culture

7．課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業時にフィードバックします。
夏休みに出す課題レポートは、添削して返却します。

8．成績評価の方法
口頭発表（30％）、レポート（30％）、平常点（40％）

9．その他

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

４単位	１年次	**日置　貴之**

１．授業の概要・到達目標

【授業概要】

劇場・ホールや美術館・博物館を訪れることで、あるいは書籍や映像ソフト・配信サービスなどを通じて、文化・芸術に触れる機会を持つ人も多いでしょう。もし皆さんが比較的若く、いわゆる「健常者」（という言葉と、対義語である「障害者」という言葉そのものや、その表記についても授業を通して考えたいと思います）で、日本語話者であれば、そうした行為に特に困難を感じることはないかもしれません。しかし、高齢者や「障害者」、非日本語話者にとっては、日本で文化施設に足を運び（あるいは書籍や映像ソフトを購入するなどして）文化・芸術に接すること（＝文化・芸術にアクセスすること）は、必ずしも容易ではありません。

この授業では、（１）どのような要因によって文化･芸術へのアクセスに困難が生じるか、（２）それに対してこれまでにどのような対応（＝アクセシビリティの確保）がなされているか、といった実例を知るとともに、（３）そもそもなぜすべての人の文化・芸術へのアクセスが保障される必要があるのか、といった問題について考えた上で、受講者にはいくつかのグループを作ってもらい、各グループごとに課題（既存の文化施設等におけるアクセシビリティ確保の取り組みの調査と改善案の作成など）をおこないます。

【到達目標】

文化・芸術に対するアクセスの問題についての十分な知識と、文献資料や聞き取りに基づく調査の能力を身につけ、それをもとに各自で設定した課題に対する解決策を導き出すことができるようになる。

２．授業内容

【春学期】

第１回　イントロダクション
第２回　図書館・データベースの利用法
第３回　ディスカッション：芸術に対するアクセスが制限されているのはどのような人々か
第４回　ディスカッション：芸術に対するアクセシビリティ向上の取り組みの例
第５回　ディスカッション：なぜ文化・芸術へのアクセスが必要なのか
第６回　レクチャー：法的根拠と芸術的理由
第７回　報告・ディスカッション：美術館・博物館見学の報告
第８回　文献講読（１）／グループワーク（１）
第９回　文献講読（２）／グループワーク（２）
第10回　文献講読（３）／グループワーク（３）
第11回　映像鑑賞（１）／グループワーク（４）
第12回　映像鑑賞（２）／グループワーク（５）
第13回　ゲスト講義：舞台芸術と手話通訳・字幕ガイド～アーティストの立場から
第14回　春学期のまとめ

【秋学期】

第15回　グループ報告（１）
第16回　文献講読（４）／グループワーク（６）
第17回　文献講読（５）／グループワーク（７）
第18回　文献講読（６）／グループワーク（８）
第19回　ゲストワークショップ：NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワークの取り組み
第20回　文献講読（７）／グループワーク（９）
第21回　グループ報告（２）
第22回　グループ報告（３）
第23回　グループ報告（４）
第24回　グループ報告（５）
第25回　グループ報告（６）
第26回　グループ報告（７）
第27回　グループ報告（８）
第28回　秋学期のまとめ

３．履修上の注意

文化・芸術へのアクセシビリティ確保のための取り組みに関わっている方々に、ゲストとしてお話しいただく回を設けます（現時点で、舞台芸術へのアクセシビリティ向上の取り組みをおこなっているNPO法人シアター･アクセシビリティ･ネットワークの関係者､公演で観劇サポートサービスを導入している劇団の関係者などの方々にご協力いただく予定です）。これらの回はゲストの都合によっては本来の授業時間とは別の時間帯におこなうことになる場合もあり得ます。

授業時間以外に、各自で文化施設等の見学をおこなうことや、授業で取り上げる文献を事前に読み、必要な調査をおこなうこと、グループワークの相談などで、かなりの時間の自習をおこなうことを求めます。また、各回の授業には、必ず十分な予習をおこなった上で参加し、ディスカッションでは積極的な発言をおこなうことを求めます（ただ教室に来て座っているだけでは、一切成績評価の対象とはなりません）。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

【予習】

・授業で取り上げる文献資料について、事前に内容を確認した上で、必要な事柄について調査をおこなう。
・各グループごとに、教員の指示する課題について調査等をおこない、授業で報告をおこなうための準備（配布資料の用意など）をおこなう。

【復習】

・各自で授業内容を確認・整理し、疑問点等についてはクラスウェブのディスカッション機能等を使って、確認をおこなう。
・各グループごとに、授業での報告に対する指摘等を踏まえて、さらに調査等を進める。

５．教科書

使用しない。

６．参考書

伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』光文社、2015年
川内有緒『目の見えない白鳥さんとアートを見にいく』集英社インターナショナル、2021年
九州大学ソーシャルアートラボ編『アートマネジメントと社会包摂　アートの現場を社会にひらく』水曜社、2021年
長津結一郎『舞台の上の障害者　境界から生まれる表現』九州大学出版会、2018年
南部充央『障害者の舞台芸術鑑賞サービス入門　人と社会をデザインでつなぐ』NTT出版、2019年
中村美帆『文化的に生きる権利　文化政策研究からみた憲法第二十五条の可能性』春風社、2021年
平塚千穂子『夢のユニバーサルシアター』読書工房、2019年
ほか適宜紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法

各回授業についての質問・コメントをクラスウェブから提出してもらう。次回以降の授業内およびクラスウェブ上でフィードバックをおこなう。

８．成績評価の方法

授業における報告やディスカッションにおける発言等、授業への参加度70%、最終的なグループ課題30%。

９．その他

心身の条件等により、受講に際して特別の配慮が必要となる場合は、履修を検討している際にでも、また履修登録後にでも、hioki@meiji.ac.jpへ相談してください。授業資料や板書等について、文字の大きさや字体、色などに配慮することなどが可能です。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

４単位	１年次	**堀口　悦子**

１．授業の概要・到達目標

ジェンダーの問題は、何か特別なことではなく、実は身近なところに、たくさんある問題である。けれども、つい見逃してしまうような、危うさを持った問題でもあることは確かである。

本ゼミでは、英国のテレビドラマシリーズである、『セックス・エデュケーション』の視聴を通して、日本に欠けている「性教育」の問題に真正面から取り組んだドラマである。世界的に好評で、第４シリーズまで制作されて終了した。多様なジェンダーの問題をはじめ、いろいろな問題に気付こう。事前に、動画配信サービス（ネットフリックス）を利用して、視聴しておいてほしい。月額1千円程度、春学期・秋学期各13回程度観ておいてほしい。

「性教育」の問題から、恋愛、友情、親子関係など、多様な現代の問題を描いている。「性教育」及び「性的同意」は、堀口ゼミ全学年の統一テーマでもある。合宿やZOOM会議などを通して、先輩たちとの交流を図る機会もある。もう一つのゼミの統一テーマは、「日本のエンタメにジェンダー視点を！」である。外国のドラマを通して、考えてみてほしい。

一つのテレビドラマを継続的に視聴しながら、上記のような多様な問題や視点の発見を目指す。ただ、漫然とテレビドラマを見るだけではなく、積極的にドラマから学ぼうとする姿勢で視聴してほしい。

ドラマの中に描かれた、自分が関心を持ったテーマについて、レポートを書くことが到達目標である。レポートは年内に完成させ、冬休み中に1年生のゼミ生全員のレポートを読み、短い講評を各人のレポートについて書く。自分たちの書いたレポートを、担当教員に読んでもらうだけではなく、ゼミ生全員がお互いのレポートを読むことによって、一つのドラマの中に多様なテーマがあることだけではなく、一口にレポートといっても、様々な書き方があることを学ぶ。

年明けのゼミでは、そのお互いの講評をもとに、意見を出し合い、フィードバックする。

毎回のゼミでは、前半に上記のテレビドラマの意見や感想を出し合う。後半は、教科書の輪読やイベント参加のための研究活動等を行う。

夏休みには、合宿を２泊３日で、国立女性教育会館（NWEC）〈東武東上線武蔵嵐山駅〉で行う。NWECフォーラムにも参加する予定です。宿泊費食事代等で、約1万円＋初日の夕食を兼ねた懇親会費4千円＋交通費。新型コロナの影響で合宿が出来ない場合は、オンラインでNWECフォーラムに参加する。秋には、イベントもある。これらのイベントへの参加のための研究及び準備も行う。これがアクティブ・ラーニングの実践である。

春学期の初期に、『恋愛基本のキ』打越さく良　岩波ジュニア新書を読み、DVやデートDVの基本的なことを学ぶ。授業で輪読し、春学期の最後のゼミに読後感を書いたものを提出する。上記のネットフリックスで配信中の韓国ドラマ「ロースクール」も観てほしい。ロースクールの学生のデートDVなども描かれている。書籍とドラマとのメディアミックスで、デートDVの問題も考えてほしい。

１年生の最初に、基本的な、話す力・読む力・書く力を付けることも目指す。

２．授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　『セックス・エデュケーション』第1シーズン第１回意見交換・教科書輪読
第３回　『セックス・エデュケーション』第1シーズン第２回意見交換・教科書輪読
第４回　『セックス・エデュケーション』第1シーズン第３回意見交換・教科書輪読
第５回　『セックス・エデュケーション』第1シーズン第４回意見交換・教科書輪読
第６回　『セックス・エデュケーション』第1シーズン第５回意見交換・教科書輪読
第７回　『セックス・エデュケーション』第1シーズン第６回意見交換・教科書輪読
第８回　『セックス・エデュケーション』第1シーズン第７回意見交換・教科書輪読
第９回　『セックス・エデュケーション』第1シーズン第８回意見交換・教科書輪読
第10回　夏合宿の事前学習①
第11回　夏合宿の事前学習②
第12回　夏合宿の事前学習③
第13回　外部講師の講演（予定）
第14回　春学期のまとめ－学年末レポートに向けてのレジュメ提出
第15回　『セックス・エデュケーション』第2シーズン第１回意見交換・チームごとの研究
第16回　『セックス・エデュケーション』第2シーズン第２回意見交換・チームごとの研究
第17回　『セックス・エデュケーション』第2シーズン第３回意見交換・チームごとの研究
第18回　『セックス・エデュケーション』第2シーズン第４回意見交換・チームごとの研究
第19回　『セックス・エデュケーション』第2シーズン第５回意見交換・チームごとの研究
第20回　『セックス・エデュケーション』第2シーズン第６回意見交換・チームごとの研究
第21回　『セックス・エデュケーション』第2シーズン第７回意見交換・チームごとの研究
第22回　『セックス・エデュケーション』第2シーズン第８回意見交換・チームごとの研究
第23回　『ロースクール』意見交換
第24回　チームごとの研究
第25回　チームごとの研究
第26回　チームごとの研究
第27回　チームごとの研究
第28回　ゼミ生のレポートの講評
*諸事情により、変更することがある。

３．履修上の注意

毎回、じっくりとテレビドラマを視聴してください。必ず、何らかの発見があるはずである。

教科書を読むことで、基本的なことを学び、これをきっかけに、多様なジェンダー問題を考えてみてほしい。

予定では、8月にNWECで合宿及びフォーラム参加、11月に東京ウィメンズプラザでフォーラム参加、12月に学部の情コミ交流祭参加、2024年3月にNGOCSW ６８のパラレルイベント参加である。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

若者のテレビ離れが激しいが、たまにはテレビを見てみよう。
教科書の必要な部分は、ゼミの前に読んでおいてほしい。

５．教科書

『恋愛基本のキ』 打越さく良　岩波ジュニア新書

６．参考書

各自で、ドラマ、映画、小説　漫画など参考になるものを探してください。

７．課題に対するフィードバックの方法

随時、課題に対するフィードバックを行う予定である。最終回のゼミで、全体の課題のフィードバックを行うが、時間が足りない場合は、Oh-o!Meijiの「授業のお知らせ管理」などを使用して補足する。

８．成績評価の方法

積極的なゼミ参加30%、合宿・イベントへの参画50%、レポート20%

９．その他

大学で学ぶテーマがない方もある方も、参加してみよう。

いろいろなイベントに参加する機会の多いゼミなので、とにかく1年間を通して忙しいが、やりがいはあると思う。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	宮川　　渉

1．授業の概要・到達目標
本ゼミナールの目的は、私たちが日常当たり前に接している音や音楽がいったいどういうものなのかを考えることにあります。ある音楽の理解を深めることは、音楽の知識を身につけるだけでなく、その音楽が生まれた環境や社会を知ることにもつながります。それ故、音楽はあらゆる分野に通じる学際的な分野であると考えられます。
この授業では、創作や演奏といった音楽の実践に取り組むと同時に音楽を研究するいう実践と研究の両方のアプローチを身に付けることを目指します。これは音楽に限らず多くの研究には、実践的側面と理論的側面の両方が必要だと考えられるからです。春学期は実践、秋学期は研究に主に取り組みます。実践においては、作曲やアレンジに取り組み、春学期の終わりに成果発表を行います。研究においては、受講者が研究テーマを設定し、作業に取り組み、秋学期の終わりに成果発表を行います。また音楽研究に関連する文献講読も行い、これらを通じて音楽に関する知識や研究方法などを修得することを目的とします。

2．授業内容
第１回　aのみ：イントロダクション
第２回　自己紹介(1)　音楽制作関連のソフト(1)
第３回　自己紹介(2)　音楽理論(1)
第４回　自己紹介(3)　音楽理論(2)
第５回　自己紹介(4)　音楽理論(3)
第６回　音楽理論(4)
第７回　音楽理論(5)
第８回　音楽理論(6)
第９回　グループ制作
第10回　課題準備(1)
第11回　課題準備(2)
第12回　課題準備(3)
第13回　プレゼン(1)
第14回　プレゼン(2)
第15回　aのみ：イントロダクション
第16回　研究の進め方・研究課題についての話し合い
第17回　文献講読(1)
第18回　資料収集・調査
第19回　文献講読(2)　レポートの書き方について
第20回　文献講読(3)　研究課題準備(1)
第21回　文献講読(4)　研究課題準備(2)
第22回　文献講読(5)　研究課題準備(3)
第23回　研究課題準備(4)
第24回　研究課題準備(5)
第25回　プレゼン(1)
第26回　プレゼン(2)
第27回　プレゼン(3)
第28回　プレゼン(4)

3．履修上の注意
授業内容は変更することがあります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
実践テーマと研究テーマの準備や作業は授業時間だけでは不十分なので、授業時間外にも取り組む意欲と時間が必要です。

5．教科書
特にありません。

6．参考書
必要に応じて参考文献を紹介します。

7．課題に対するフィードバックの方法
課題へのフィードバックは基本的に授業内で行うが、必要に応じて授業時間外にもOh-olMeijiなどを活用して行います。

8．成績評価の方法
授業内での取り組み30％、成果物（プレゼン、制作物、レポート）70％

9．その他
音楽経験者、未経験者に関係なく、いろいろなものに好奇心があり、やる気のある積極的な人を歓迎します。音楽理論などを説明する上では楽譜を使用することがあります。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	山内　　勇

1．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
皆さんは、イノベーションが企業の成長や、一国の経済成長にとって重要だという話は色々なところで耳にしているでしょう。しかし、イノベーションが何かと聞かれると、説明することは意外に難しいと思います。
このゼミでは、イノベーションや、それを分析するための道具としての経済学について、基本的な考え方を学習します。具体的には、自分の気になる製品・サービスを取り上げ、それを生産・販売している会社の開発戦略や市場戦略を分析していきます。
【到達目標】
このゼミでの到達目標は、イノベーションのプロセスを直観的に理解し、経済学的に説明できるようになることです。なお、その過程で、文献を調べ、データを集め、集計し、資料をまとめ、プレゼンするという、大学での学習に必要な一連のスキルを身に付けることも、この授業の目的です。

2．授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　プレゼン資料の作成方法
第３回　グループワーク：イノベーションの基礎概念
第４回　グループワーク：ターゲティング
第５回　グループワーク：戦略論
第６回　グループワーク：先行技術調査、PEST分析
第７回　グループワーク：ファイブフォース
第８回　グループワーク：SWOT分析
第９回　グループワーク：消費者の課題と解決手段の提供
第10回　グループワーク：課題解決手段としての製品開発
第11回　グループワーク：先行技術調査
第12回　グループワーク：製品差別化
第13回　グループワーク：中間報告(1)
第14回　グループワーク：中間報告(2)
第15回　データ分析の基礎１：データの入手・整形
第16回　データ分析の基礎２：記述統計
第17回　データ分析の基礎３：前処理
第18回　データ分析の基礎４：関数
第19回　データ分析の基礎５：データの接続
第20回　データ分析の基礎６：相関・回帰
第21回　グループワーク：市場・産業分析の方法
第22回　グループワーク：市場・産業分析の実践
第23回　グループワーク：技術開発動向分析の方法
第24回　グループワーク：技術開発動向分析の実践
第25回　グループワーク：イノベーションの成果指標
第26回　グループワーク：企業戦略と成果指標の関係
第27回　最終報告 (1)
第28回　最終報告 (2)

3．履修上の注意
発言のない学生は授業に貢献していないものとみなします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：演習で扱うテーマについて、議論に必要となる情報を参考書等から収集しておくこと。また、担当者は報告資料を用意すること。
復習：演習での報告内容、議論・コメントを整理し、次の報告にいかすこと。

5．教科書
指定しない（資料を配付する）。

6．参考書
『イノベーション&マーケティングの経済学』金間大介・山内勇・吉岡（小林）徹著、中央経済社
『世界標準の経営理論』入山章栄、ダイヤモンド社
『マーケティング・サイエンス入門』古川一郎・守口剛・阿部誠著、有斐閣アルマ

7．課題に対するフィードバックの方法
授業中にフィードバックを行う。

8．成績評価の方法
報告内容（５０％）、授業への貢献（５０％）

9．その他
データ分析のため、ノートパソコンを持参してもらうことがあります。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	山口　達男

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】

われわれが日常生活を送っている現代社会にはさまざまな名称が用いられている。情報社会やネット社会、資本主義社会、消費社会、多文化社会、持続可能な社会などである。本ゼミナールでは、そうした数多ある「〇〇社会」といった“呼び名”のなかでも「監視社会」に注目していくことで、現代社会が抱える諸問題を考える際の「構え方」を学生諸君に身につけてもらうことを目的としている。

一般的に「監視社会」は警戒し抵抗すべき社会として認識されているが、「監視」（surveillance）という語には「見張り」と「見守り」のふたつの意味があると言われている。つまり、単純にネガティブな行為としてではなく、ポジティブな行為としても「監視」は受け止めることが可能だとされている。「監視」は現代社会における「社会問題」のひとつであるが、そこでの評価がこのように分かれるということは、他の社会問題についても、ネガティブなだけではなくポジティブな側面があると予測できよう。

であるならば、われわれはつねに社会的な物事や現象に対して多面的な見方をする必要がある。本ゼミナールで身につけてもらいたいのは、まさにそうした多面的な見方をするための「構え方」である。

そこで授業では、監視社会あるいは情報社会に関連するテキストの講読を通して「監視の二面性」について学び、上述した「構え方」の習得を目指す。さらに、学生各自に「気になっている」社会問題を取り上げてもらい、自らの意見を発表し、仲間たちとディスカッションしていくことで、社会を多面的に観察する習慣を養ってもらう。

【到達目標】

①テキストを適切に「読解」できる。
②テキストの内容を適切に「表現」できる。
③自分の意見を「論理的」に説明できる。

2．授業内容

第１回：春学期イントロダクション
第２回：「監視」について
第３回：テキスト講読と発表①－(1)
第４回：テキスト講読と発表①－(2)
第５回：テキスト講読と発表①－(3)
第６回：テキスト講読と発表①－(4)
第７回：テキスト講読と発表①－(5)
第８回：テキスト講読と発表①－(6)
第９回：テキスト講読と発表①－(7)
第10回：グループディスカッション①－(1)
第11回：グループディスカッション①－(2)
第12回：グループディスカッション①－(3)
第13回：レポート作成の練習①
第14回：春学期まとめ

第15回：秋学期イントロダクション
第16回：「管理」と「制御」について
第17回：テキスト講読と発表②－(1)
第18回：テキスト講読と発表②－(2)
第19回：テキスト献講読と発表②－(3)
第20回：テキスト講読と発表②－(4)
第21回：テキスト講読と発表②－(5)
第22回：テキスト講読と発表②－(6)
第23回：テキスト講読と発表②－(7)
第24回：グループディスカッション②－(1)
第25回：グループディスカッション②－(2)
第26回：グループディスカッション②－(3)
第27回：レポート作成の練習②
第28回：秋学期まとめ

3．履修上の注意

演習形式の授業のため、授業への参加を重要視する。また発表担当になった場合は必ず発表用の資料を作成した上で授業に臨むこと。
発表担当者以外も、テキストを必ず読んだ上で授業に参加すること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

予習：テキストの当該範囲を読む。
復習：発表内容を踏まえて自分なりの意見を持つ。

5．教科書

『〈情弱〉の社会学』柴田邦臣（青土社）
『デジタル革命の社会学』アンソニー・エリオット（明石書店）
※詳しくは初回の授業時に説明する。
※学生からのリクエストがあれば最大限に考慮する。

6．参考書

『監視社会』デイヴィッド・ライアン（青土社）
『監視スタディーズ』デイヴィッド・ライアン（岩波書店）
※その他、適宜授業内で紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

その都度、授業内でのコメントとして行なう。

8．成績評価の方法

授業への参加：30%、発表：40%、レポート：30%

9．その他

ゼミナールでは積極的な発言や意見交換が重要となる。周囲の目を気にする必要はまったくないので、その場で思ったこと、これまで考えてきたことなどをどんどん伝えてきてほしい。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	横田　貴之

1．授業の概要・到達目標

この授業のテーマは国際問題です。国際問題、国際関係、国際政治、国際情勢、などがキーワードとなります。国際政治を理解する基礎的な能力を修得することがこの授業の目的です。そのために、読み・書き・発表の実践的訓練を行います。

国際問題を理解する能力は、現代を生きる我々にとって不可欠の能力です。日本という殻に閉じこもってやり過ごせる時代は過ぎ去りました。では、国際問題について理解する力はどうやって修得すればいいでしょうか？学生の皆さんが自分自身で、国際問題について「知り」、「考え」、「述べる」ことによってはじめて可能になります。

授業においては、初学者に適した教科書として、足立研幾・坂木雅彦他編『プライマリー国際関係学』（ミネルヴァ書房、2021年）を指定します。指定教科書の輪読と発表、それを踏まえてのレポート作成が基本的な流れになります。グループ単位での調査、および研究成果の発表も適宜課す予定です。一連の作業を通じて、異文化や国際情勢に関する理解の基礎を習得するとともに、ディスカッション、プレゼンテーション、文献収集・調査など大学生に必須の基本的スキルを習得することを到達目標とします。なお、具体的な国際問題そのものの分析ではなく、その分析に不可欠な力を修得することを目標とします。

2．授業内容

第１回　春のイントロダクション：授業の目的と方法（aのみ）
第２回　大学図書館を学ぶ―文献資料収集の意味
第３回　国際関係における「秩序」とは何か（輪読・解説）
第４回　国際経済と国際関係（輪読・解説）
第５回　国際関係と文化（輪読・解説）
第６回　受講生によるグループ研究発表
第７回　受講生によるレポート発表・講評
第８回　国際法と国連（輪読・解説）
第９回　デモクラシー（民主主義）とは（輪読・解説）
第10回　貧困と開発（輪読・解説）
第11回　SDGs（輪読・解説）
第12回　受講生によるグループ研究発表
第13回　受講生によるレポート発表・講評
第14回　春学期総括と夏季休暇課題の説明
第15回　秋のイントロダクション＋夏季課題提出（aのみ）
第16回　国際関係とジェンダー（輪読・解説）
第17回　国際関係とメディア（輪読・解説）
第18回　紛争を考える（輪読・解説）
第19回　国際関係から考える地球温暖化（輪読・解説）
第20回　受講生によるグループ研究発表
第21回　受講生によるレポート発表・講評
第22回　移民問題（輪読・解説）
第23回　越境的組織犯罪（輪読・解説）
第24回　米中対立（輪読・解説）
第25回　EU統合再考（輪読・解説）
第26回　アフリカ（輪読・解説）
第27回　受講生によるグループ研究発表
第28回　マイカリキュラムの講評＋授業総括

3．履修上の注意

毎学期最初のイントロダクション（第１回･15回）には必ず出席すること。宿題・課題の分量は大学入試よりは少ないですが、サボると脱落するでしょう。せっかくの大学生活の始まりなので、この「ブートキャンプ」でみっちり鍛えましょう。そのためには、必ず課題を済ませ、課題発表･ディスカッションへ主体的に参加してください。後々、良かったと思える授業にしましょう。
なお、ゼミは学生の皆さんが主役です。授業の充実度は、皆さんの取り組み次第です。また、ゼミでのディスカッション等において発言しない場合、欠席扱いとなります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業内で適宜指定する文献を必ず事前に読了すること。各テーマの要点の復習のために、文献の読み返しを行うこと。

5．教科書

足立研幾・坂木雅彦他編『プライマリー国際関係学』（ミネルヴァ書房、2021年）。

6．参考書

なし

7．課題に対するフィードバックの方法

課題を課す場合は、その次の回で受講生に対面で講評・解説を行います。

8．成績評価の方法

授業内での発表（40%）、ディスカッションなど授業への貢献（40%）、レポート（20%）

9．その他

国際関係や国際問題にに興味を持つ学生を歓迎します。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

４単位	１年次	脇本　竜太郎

１．授業の概要・到達目標

【授業の概要】

教科書および論文を読んで社会心理学の知見を学ぶとともに、エクササイズや実習を交えて大学での学びに必要なスキルを習得する。批判的な読み、基礎的な量的分析と結果の説明(レポート執筆)を重視する。

具体的な活動としては、①教科書および論文のレジュメ発表と相互評価、②実験や調査の体験、③Rを用いた量的データの分析、④レポート執筆を行う。

【到達目標】

①社会心理学の重要知見について、その手続きを含めて理解することができる。
②自分の主張を論理的に伝えることができる。
③統計的分析の結果を理解し適切に説明することができる。
④図と表を目的に応じて使い分けることができる。
⑤他者の発表に対して、建設的な批判ができる。

２．授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　図書館ガイダンス
第３回　輪読　影響力の武器第1章および第2章
第４回　輪読　影響力の武器第3章および第4章
第５回　輪読　影響力の武器第5章および第6章
第６回　輪読　影響力の武器第7章および第8章
第７回　論文輪読：恋愛関係
第８回　サンプルデータの分析：恋愛の色彩理論
第９回　レポート執筆：恋愛関係
第10回　論文輪読：自己概念
第11回　調査体験：自己概念
第12回　レポート執筆：自己概念
第13回　測定法の比較
第14回　春学期の振り返り
第15回　論文輪読：リサーチリテラシー
第16回　データの二次分析：リサーチリテラシー
第17回　レポート執筆：リサーチリテラシー
第18回　論文輪読：自尊感情
第19回　研究体験：自尊感情の測定
第20回　レポート執筆：自尊感情
第21回　論文輪読：性役割態度
第22回　調査体験と分析：性役割態度
第23回　レポート執筆：性役割態度
第24回　論文輪読：公正さについての信念
第25回　調査体験：公正さについての信念
第26回　レポート執筆：公正さについての信念
第27回　マイカリキュラムへのフィードバック
第28回　総括
※内容は履修者の人数や興味関心に応じて変更することがある。

３．履修上の注意

・輪読では履修者の発表に基づいて議論を進めるので、責任をもって準備すること。テキストや論文の棒読みは発表とはみなさない。
・Rでの分析やレポート執筆の回に欠席した場合、自分自身で資料を読んで学習して分析を行い、レポートを提出すること。関係資料はOh-o! Meijiにアップする。欠席してもレポートの提出は免除にならない（ただし、感染症等の特別な事由による欠席を除く）。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

発表担当でなくとも、教科書の該当箇所や論文を読んでおくこと。講義内で理解度を確認するための質問をすることがある。

５．教科書

『影響力の武器 新版』チャルディーニ、R. B.（著）社会行動研究会（訳）　誠信書房

６．参考書

授業中に適宜紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法

プレゼンやレジュメについては授業時にフィードバックを行う。レポートについては提出の都度フィードバックを行う。

８．成績評価の方法

授業への参加度40%、レポート60%

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

４単位	１年次	和田　　悟

１．授業の概要・到達目標

このゼミナールでは、文献の講読や発表を通じ、「世界経済の成長センター」とも呼ばれる東南アジアの事情や現代社会の問題について学びます。取り上げる本は、できるだけ入手しやすい入門的なテキストを扱います。学んだ事柄を披露し合い、読んで考えたことについて意見を交わして、様々な見方を手に入れましょう。

到達目標は、各自が上位学年のゼミナールや授業で役立つ学びスキルを修得することです。また、異なる文化や慣習をもつ人々とも臆することなく向き合う積極性を養うことです。

この授業では、6月にタイ・ラオスからの短期留学生を受け入れて交流を行います。英語が苦手でも心配いりません。留学生とのコミュニケーションは基本的に「日本語」で行います。ただし、みなさんが普段「適当に」使っている日本語ではうまく意図が通じないことが多いです。交流経験はみなさんの日本語をふり返る大切なきっかけとしてください。

２．授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　東南アジアと日本経済の関わりについて
第３回　『デジタル化する新興国』(1)
第４回　『デジタル化する新興国』(2)
第５回　『デジタル化する新興国』(3)
第６回　『デジタル化する新興国』(4)
第７回　留学生との交流準備
第８回　留学生との交流・意見交換
第９回　留学生との交流をふり返って
第10回　『デジタル化する新興国』(5)
第11回　『デジタル化する新興国』(6)
第12回　『デジタル化する新興国』(7)
第13回　『デジタル化する新興国』(8)
第14回　春学期の総括・夏休み課題について

第15回　夏休み課題について / 秋学期の進め方
第16回　課題図書①の発表 (1)
第17回　課題図書①の発表 (2)
第18回　課題図書①の発表 (3)
第19回　課題図書①の発表 (4)
第20回　課題図書②の発表 (1)
第21回　課題図書②の発表 (2)
第22回　課題図書②の発表 (3)
第23回　課題図書②の発表 (4)
第24回　課題図書③の発表 (1)
第25回　課題図書③の発表 (2)
第26回　課題図書③の発表 (3)
第27回　課題図書③の発表 (4)
第28回　総括

３．履修上の注意

６月に行われるタイ・ラオスで日本語を学んでいる短期留学生との交流を実施しています。海外の学生との交流はこの授業の重要な部分です。留学生とのコミュニケーションに積極的に取り組んでもらう必要があります。コミュニケーションの点で苦手だったり気後れしたりする人も、これを機会にぜひ積極的に取り組んでみてください。
事情が許せば、秋学期もzoomでのオンライン交流も実施したいと考えています。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

基本的に、各回の課題図書について分担を決め順に発表し話し合います。前半部分は交流の際の相手の社会背景や日本との関わりを考えるのに大切なので、特に担当割り当て部分についてしっかり取り組んでください。

５．教科書

『デジタル化する新興国』伊藤亜聖,中公新書など。
ほか、受講者の関心や時事的な問題を扱う文献を選定します。
テキストの準備方法などは授業中に説明しますが、学部のゼミへの助成金を最大限活用する予定なので、事前に自分で用意する必要はありません。

６．参考書

『新興貿易立国論』大泉啓一郎，中公新書，岩波新書 ほか

７．課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー、レポートなどの提出物へコメントは、提出期限後にOh-o! Meijiでフィードバックする。

８．成績評価の方法

各回の発表、発言 ４０%、短期留学生の受入への積極的関与 ３０%、期末レポート３０%

９．その他

いま社会で求められている「コミュニケーション能力」は同質・同世代の友人の多さで決まるわけではありません。異なる背景や価値観をもつ人々と共に働けることが大切です。学部で用意している国際交流の機会を是非有効に活かしてください。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	渡邊　容子

1．授業の概要・到達目標

大学生活に何を求めていますか。そして、情報コミュニケーション学部で何を学びたいと考えていますか。このゼミナールでは、大学生活における目的や目標を自ら明確にし、大学で学ぶ意義を自主的に自律的に探索するための基礎知識の構築を目指します。同時に、社会の中でどのように生きていくのか、どのように働いていくのかなどの問いに関して、大学生活のなかで、いかなる知識・情報を習得・活用し、自分の価値観、生き方や働き方を考える（キャリアデザイン）基盤を構築することを目的とします。

授業は、講義とグループワークを中心として、自分のこれまでの経験や知識を活用しつつ、自らの将来の生き方と現在の学生生活を結びつけ、日々の学生生活の充実が図れることを目標とします。

大学という場を最大限に活かし、多様な経験と学習を積み、自分を成長させる可能性を広げることを到達目的とし、大学で学ぶ意義を明確にし、加えて、言語表現により自分の「考え」を「伝える」力の習得を目指します。

2．授業内容

第１回　イントロダクション：「大学」とはどんなところか・ゼミナールの目標
第２回　大学で学ぶ意義：情報コミュニケーション学とリベラルアーツ
第３回　大学におけるキャリア形成とキャリアデザインの考え方
第４回　学びのヒント①：18歳成人とリーガルマインド
第５回　学びのヒント②：社会生活と「情報」のリスクマネジメント
第６回　学びのヒント③：働く意義と職業選択（働き方・資格・就活について）
第７回　知識と行動の多様性①：ＶＵＣＡの時代をどう理解するか
第８回　知識と行動の多様性②：細分化されたリテラシーの興味
第９回　知識と行動の多様性③：キャリア形成のための体系的知識
第10回　キャリアデザインの実践：バックキャスティング
第11回　「伝える」①：プレゼンテ―ションとコミュニケーション
第12回　「伝える」②：プレゼンテーションの実践（１）
第13回　「伝える」③：プレゼンテーションの実践（２）
第14回　夏季課題について：「書評」を書いてみよう（夏季課題）
第15回　春学期のふりかえりと秋学期の進め方
第16回　夏季課題報告会①：プレゼンテ―ションの実践（３）
第17回　夏季課題報告会②：プレゼンテ―ションの実践（４）
第18回　書評についてのまとめとグループディスカッションのポイント
第19回　グループディスカッション入門
第20回　キャリアデザインの社会的意義と考え方
第21回　アクティブラーニング①：ゲームを通じてグループワークの意義を知る
第22回　アクティブラーニング②：ゲームを通じて他者の考え方を知る
第23回　自己理解：モチベーショングラフの作成からキャリアデザインへ
第22回　現代社会における気になる事象と問題点を探す：身近な社会保障
第23回　アクティブラーニング③：グループディスカッション
第24回　文章のまとめ方：問題の捉え方とレポートの課題について
第25回　外的キャリアの基礎知識：企業組織の仕組み
第27回　２年次に向けてのキャリア形成とフリートーク
第28回　次年度に向けての課題と今年度のまとめ（レポート提出）

3．履修上の注意

キャリア形成の観点から、学生間・学生と教員間のコミュニケーションを重視します。
無断欠席をしないこと。授業の参加度として出席を重要視します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

大学生活で何をしたいのか、しっかり考えること。常に現代社会の様々な問題に対して関心を持つこと。新聞の購読を推奨します。

5．教科書

特に指定はしません。毎回レジュメを配布します。

6．参考書

『キャリアデザイン講座』、大宮登　監修、（日経BP社）

7．課題に対するフィードバックの方法

授業内の提出物、プレゼンテーションについては、授業内でフィードバックを行います。

8．成績評価の方法

授業への参加度20％、授業内提出物及びプレゼンテーション40％、レポート40％

9．その他

大学生活を有意義に過ごし、将来に向け自らの個性を活かした人生選択ができるように、計画的な生活の仕方、自己理解・進路適性の理解を深める方法や職業について理解を深める努力を望みます。